

3 研究ノート

「島根大学公開講座受講生の学習行動・学習意識に関する調査」…………… 仲野 寛 (135)

「高山地域住民の地域活動・意識（思い、願い）調査」…………… 大畑 修一 (192)

「島根大学公開講座受講生の学習行動・学習意識に関する調査」

(平成24年度)

I 調査の概要

1. 調査の趣旨

大学公開講座は、大学の専門的、総合的な教育・研究の機能や成果を広く社会一般に公開するため、大学の教職員が中心となり、主に地域住民を対象に生活上、職業上の知識、技術及び一般教養等に係る学習機会を提供する教育的な事業であり、大学の重要な社会貢献となっている。このような観点から本学の公開講座は、次のような主旨で地域社会に提供されている。

- ① 大学の教育・研究活動の成果を社会に還元し、大学と社会（地域社会）の結びつきを強め、社会の発展に寄与する。
- ② 大学の教育・研究機能を活かして、幅広い分野の高度で専門的、かつ体系的な学習機会を提供する。
- ③ 地域の生涯学習機関と連携し、地域の生涯学習システム的一端を担う。

また、本学の公開講座は、いわゆる大学公開講座だけでなく、学生対象の授業も公開授業という名称で大学公開講座と同様に一般市民が受講できるよう体制を整えており、公開講座と公開授業の両者を合わせて島根大学公開講座として広く展開している。

本学の公開講座は、一般市民が気軽に受講できる地域の重要な学習機会の一つになっており、講座の内容も社会人・職業人を対象とした専門的な内容だけでなく、一般教養、語学、趣味、スポーツなど各学部の特徴や教職員の専門分野を生かした彩で幅広い内容となっている。受講の対象も、一般市民が中心で、職業を持つ社会人だけでなく、内容に応じて小・中学生から高齢者までの幅広い年代層が対象となっている。

近年、社会の成熟化、情報化の一層の進展により地方の社会環境、生活環境、教育環境等も大きく変化している。大学に対する社会や住民の学習ニーズも高度化、多様化してきており、本学においても幅広い学習要求にどのように応えるか、大学の社会貢献の観点からも重要な課題となっている。

本調査は、島根大学における公開講座・公開授業受講生の学習行動・学習意識を分析し、島根大学公開講座への期待や希望、講座の評価等を明らかにし、社会や市民のニーズに対応した公開講座のあり方を検証し、改善するためのデータとして活用することが目的である。また、この調査は、毎年継続して実施しており、調査データを充実することで検証の精度を高め、公開講座の改善をより有効なものとする予定である。そのため、平成24年度の調査は、平成23年度調査とほぼ同様な質問項目を設定し、本学公開講座の受講者に対して実施し、調査の継続性を確保するとともに、調査は、一般的な公開講座と公開授業に分けて分析し、両者の講座の運営の在り方の検討する参考にできるようにした。

なお、報告書では、島根大学公開講座又は本学公開講座と表記している場合は、公開講座と公開授業の両者を含むものとし、公開講座及び公開授業と表記している場合は、それぞれの講座を単独で使用しているものとする。

2. 調査方法

平成24年度調査は本学の公開講座・公開授業の受講者（18歳未満を含む）1,409人の内、各講座、各授業の担当教員の協力を得て各講座終了時に、18歳以上の前期・後期の公開講座、公開授業受講者717人に対して質問用紙を配布し、回収した。

- (1) 調査対象 平成24年度前期・後期の公開講座、公開授業受講者
- (2) 調査期間 前期（平成24年6月～平成24年9月）※各講座終了時
後期（平成24年10月～平成24年3月）※各講座終了時

- (3) 調査方法 質問紙調査法
- ・公開講座受講者は、各講座終了時に直接配布、回収
 - ・公開授業受講者は、各期授業終了時に配布、後日回収
- (4) 回収結果 前期・後期の受講者 717人に質問紙を配布
 (公開講座受講者 476名、公開授業受講者 241名)
 回答回収数：公開講座 355人 (回収率 74.6%)
 公開授業 108人 (回収率 44.8%)
 合計 463人 (全体回収率 64.6%)

3. 調査項目

- (1) 回答者の属性 (男女・年代層・居住地域・職業)：問1～問4
 - (2) 本学公開講座の情報取得、交通手段、受講経験、年間受講状況：問5～問8
 - (3) 本学公開講座の受講理由：問9
 - (4) 本学公開講座の学習成果の活用方法：問10
 - (5) 大学での学習希望、学習関心：問11
 - (6) 島根大学公開講座への要望、感想 (自由記述)：問12
- (※上記質問の調査票は、参考資料として添付している)

4. 回答者の属性の概要

- ① 回答者463名の内、男性261名 (56.4%)、女性202名 (43.6%) である。
- ② 回答者の年齢構成は、60歳代が一番多く194人 (42.2%) で、次に70歳代が86人 (18.7%) となっている。60歳以上が全体の64.2%を占めている。
- ③ 居住地区は、松江市が82.3%、出雲市が11.0%で、両市で9割を超えている。
- ④ 職業は、無職43.8%、主婦 (夫) 16.4%が多く、全体の6割を占めている。

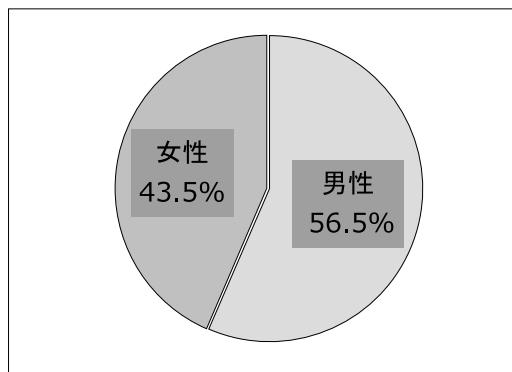


図1 回答者の性別

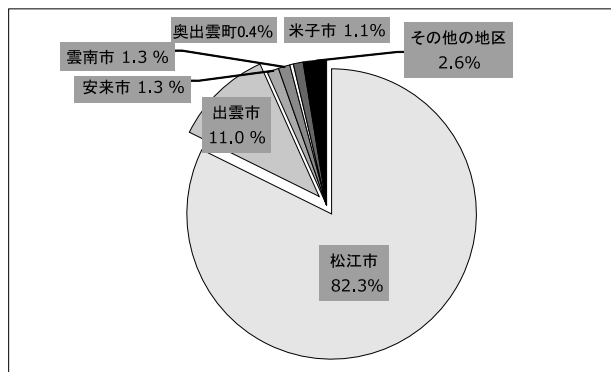


図3 回答者の居住地区

表2 回答者の年齢構成

年代	度数	%
20歳未満	3	0.7
20歳代	9	2.0
30歳代	24	5.2
40歳代	60	13.0
50歳代	56	12.0
60歳代	196	42.2
70歳代	86	18.7
80歳以上	29	6.3
合計	463	100

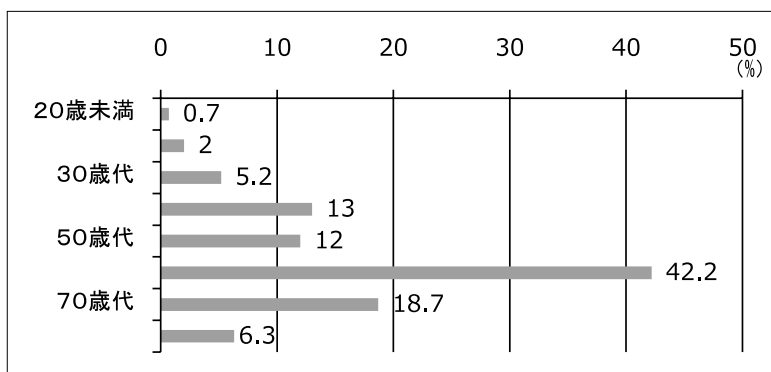


図2 回答者の年齢構成

表4 回答者の職業構成

職種・職名	度数	%
自営業	34	7.3
主婦・主夫	78	16.8
無職	203	43.8
団体職員	15	3.2
会社員	40	8.6
農林漁業従事者	5	1.1
公務員	36	7.8
パート・アルバイト	43	9.3
学生	3	0.6
その他	6	1.3
合計	463	100

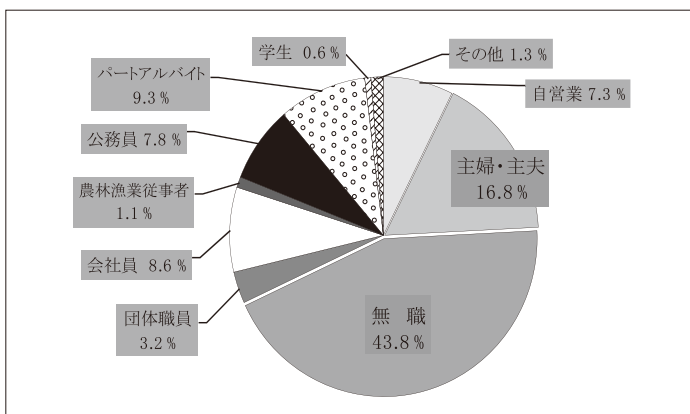


図4 回答者の年齢構成

II 調査の結果

島根大学公開講座は、公開講座と公開授業から構成されており、それぞれが特色ある学習機会となっている。公開講座は、内容によって1回から10数回の講義及び実技から構成されており、有料講座、無料講座に分かれて実施されている。一方、公開授業は大学学年歴に従って前期、後期に2回実施され、学生とともに受講する15回の講義から構成され、有料講座として実施されている。

調査結果を分析するにあたり、公開講座、公開授業は実施形態が異なっており、それに伴い受講者の意識も異なることが予想されるため両者を別途に集計し分析することとした。

1. 「公開講座」受講者の調査結果

(1) 受講者の属性と特徴 ※【質問1】～【質問4】

1) 性別

受講者の性別は、図1-1のとおり、女性が48.5%、男性が51.5%と若干男性の方が多くなっている。(表1-1、図1-1)

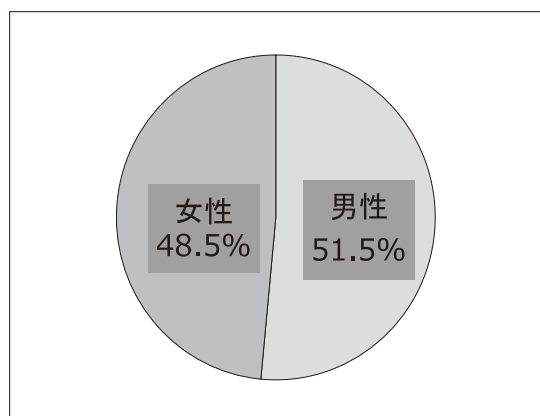


図1-1 受講者の性別

表1-1 受講者の性別の比率

性別	人数	%
男性	187	51.5
女性	172	48.5
合計	355	100

2) 年代

受講者の年代は、図1-2のとおり、60歳代が最も多く38.4%を占めており、次に70歳代で16.8%となっている。公開講座受講者の年代は、高年齢層が中心で、60歳以上が全体のほぼ6割(60.9%)を占めている。(表1-2、図1-2)

3) 居住地区

受講者の居住地区は、ほぼ8割（81.4%）が松江市であり、次に出雲市が1割強の12.4%と続いている。また、他の近隣市町村からは、それぞれ数パーセントの割合であった。これら数値は、昨年、本学の公開講座46の内、40講座（85.0%）が松江キャンパスで開講され、出雲キャンパスでは6講座（15.0%）が開講されたことの違いが大きく影響しているものと考えられる。（表1-3、図1-3）

表1-2 受講者の年代別人数（N=355）

年代	人数	%
20歳未満	3	0.9
20歳代	9	2.6
30歳代	24	6.8
40歳代	53	15.1
50歳代	50	13.9
60歳代	137	38.4
70歳代	59	16.8
80歳以上	20	5.7
合計	355	100

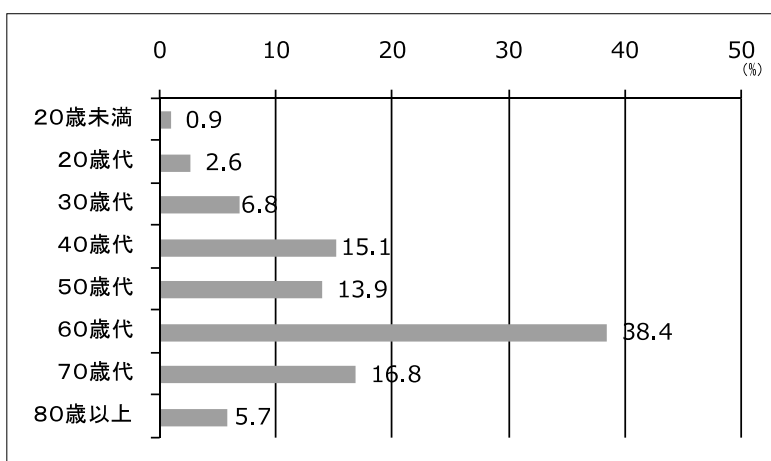


図1-2 受講者の年代別人数割合

表1-3 居住地区別の回答者数（N=355）

地区名	人数	%
松江市	289	81.4
出雲市	44	12.4
安来市	4	1.1
雲南市	3	0.8
奥出雲町	2	0.6
米子市	3	0.8
その他地区	10	2.8
合計	355	100

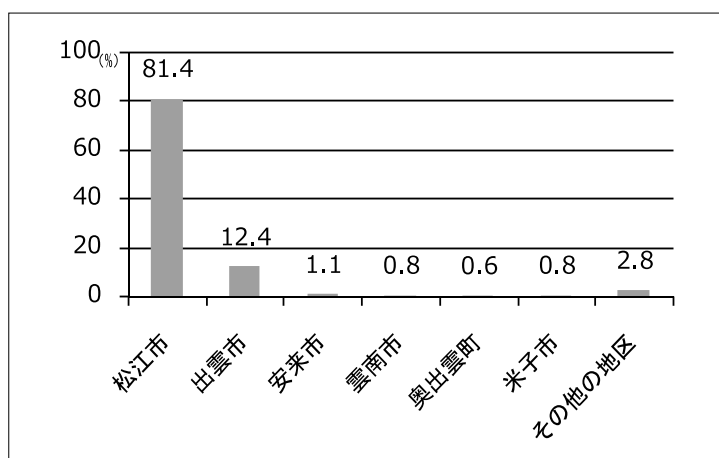


図1-3 居住地区別の回答者数

4) 職業

受講者の職業は、「無職」が最も多く39.7%、次に「主婦（夫）」が17.5%で、両者で、受講者全体の57.2%を占めており、本学公開講座受講者の主たる職業は、「無職」と「主婦（夫）」を中心に構成されていることが明らかになった。（表1-4、図1-4）

また、会社員、公務員、パートアルバイト等の多様な職種を受講者もそれぞれ10%台を占めており、公開講座への関心の高さが伺える。

表 1-4 受講者の職業・職種区分 (N=355)

職 種	人数	%
自営業	18	5.1
主婦・主夫	62	17.5
無職	141	39.7
団体職員	11	3.1
会社員	37	10.4
農林漁業従事者	4	1.1
公務員	36	10.1
パート・アルバイト	38	10.7
学生	3	0.8
その他	5	1.4
合計	355	100

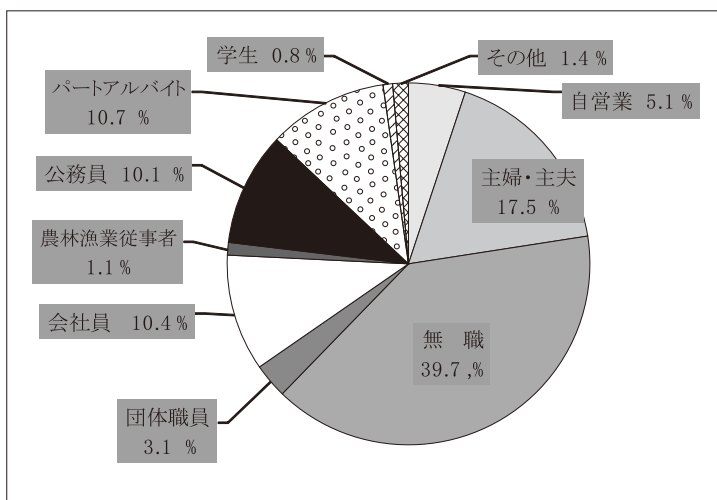


図 1-4 受講者の職業・職種区分

(2) 公開講座の募集情報の取得方法【質問 5】

公開講座に関する情報の取得方法は、図 1-5 の通り、本センターが配布している「案内小冊子」が突出して多く、2 番目以下の情報源の 3 倍近い 52.6% になっている。次は、「大学のホームページ」が 18.5%、「新聞折込チラシ」が 14.8% と続いている。その他「市町村の広報」「公共施設の配置チラシ」「クチコミ」が続いているが全て 10% 以下となっている。「案内小冊子」は、前年度の受講者に配布するものであり、リピーターとしての受講に繋がったものと考えられる。その他の「新聞折込募集チラシ、大学HP、市町村広報」等は、不特定多数の一般市民を対象と情報メディアであり、これらの情報は、新規受講者の獲得に有効であったと推察される。(表 1-5、図 1-5)

表 1-5 受講者の情報収集の方法 (N=352 M.T.=121.9)

情報源	人数	%
大学ホームページ	65	18.5
受講者募集案内小冊子	185	52.6
新聞折込募集チラシ	52	14.8
新聞記事	30	6.5
テレビ・ラジオ等の告知	1	0.3
公共施設の配置チラシ	29	8.2
市町村の広報	32	9.1
クチコミ	30	8.5
その他	5	1.4
合計	429	

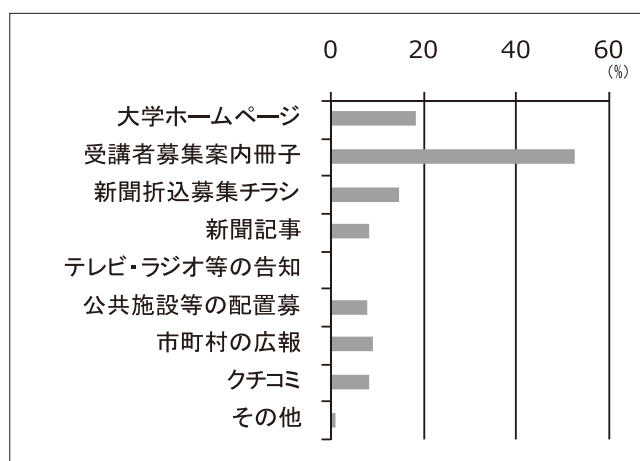


図 1-5 受講者の情報収集の方法

(3) 公開講座受講生の交通手段【質問 6】

公開講座受講者の来校のための交通手段は、自家用車の利用が全体の 3 分の 2 にあたる 66.9% となっている。その他の交通手段は、バス・電車等の公共交通機関と自転車が 10% を超えて続いている。受講者の交通手段は、本県の交通事情を鑑みると移動手段として利便性の高い車がその中心となっており、駐車場の少ない本学にとって、来校の交通手段は、今後、公開講座の拡充を図っていく上で大きな課題となるものと推察される。

表 1-6 公開講座受講者の交通手段 (N=354)

交通手段	人数	%
公共交通機関	65	18.5
自家用車	185	52.6
自転車	52	14.8
車での送迎	30	6.5
徒歩	1	0.3
その他	29	8.2
合計	354	100.0

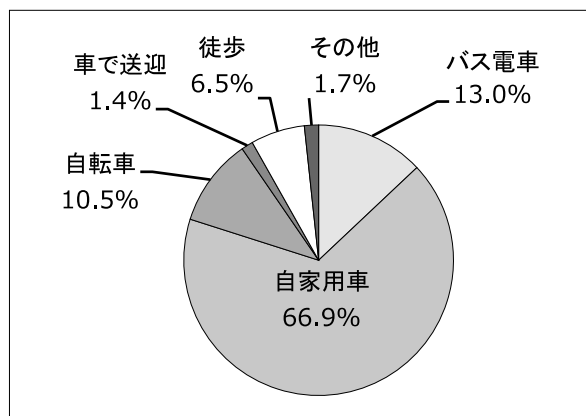


図 1-6 公開講座受講者の交通手段

(4) 公開講座の受講経験 [質問 7]

受講者の受講経験は、初めての方が35.9%、2回目、3回目以上の方が64.1%とリピーターがおよそ3分の2を占めている。このリピーターの多さが、法人化後、毎年、公開講座受講者が増加している大きな要因になっていると考察される。

表 1-7 受講者の受講経験

経験度	人数	%
初めて	99	28.0
2回目	54	15.3
3回目以上	200	56.7
合計	353	100

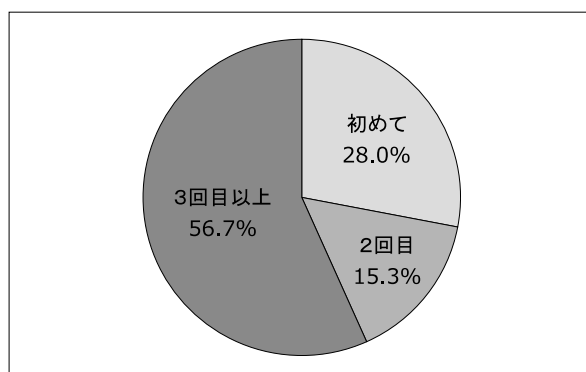


図 1-7 受講者の受講経験

(5) 公開講座の受講理由 [質問 9]

受講者の受講理由では「興味のある内容の講座があるため」が突出しており、7割近い69.2%の受講者が選択している。次に、20ポイント下がって、「幅広い教養を身につけるため」が49.0%、3番目に「専門的な知識や技術を学ぶため」が35.0%と続いている。

公開講座の場合は、その講座ごとに内容が完結することが原則であり、受講者は内容重視で選択しているものと予想される。今回、受講の理由として上位に上がっている項目は、この点を裏付ける意味で、「興味ある内容」、「教養を高める」「専門的知識を学ぶ」等が選択されているものと推察される。

表 1-8 公開講座の受講理由 (N=351 M.T.=287)

受講理由	度数	%
幅広い教養を身につけるため	172	49.0
専門的な知識や技術を学ぶため	123	35.0
時代や社会の変化に遅れないため	46	13.1
いろいろな人と交流するため	56	16.0
興味のある内容の講座があるため	243	69.2
友人・知人にすすめられたため	12	3.4
話を聞いてみたい講師がいるため	28	8.0
退職後の余暇の充実のため	79	22.5
仕事に役立つ資格を取得するため	9	2.6
心のハリや生きがいを味わうため	92	26.2
地域活動等の地域貢献に活かすため	48	13.7
生活の時間に余裕ができたため	55	15.7
大学の雰囲気味わうため	41	11.7
その他	4	1.1
合計	1008	

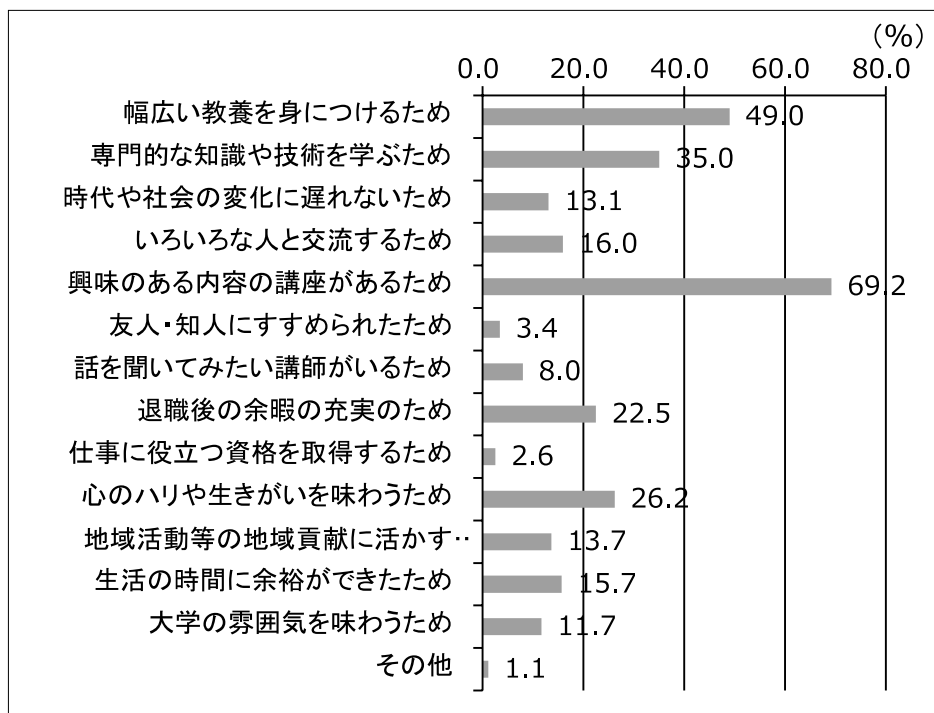


図 1-8 公開講座の受講理由

(6) 学習成果の活用方法・内容 [質問10]

「公開講座で学んだことをどのように活かすか」という問いに対して、受講者の7割以上が「趣味・教養を高め、自分の生きがいや楽しみにする」と回答している。2番目に多い回答は「自分の健康管理、体力づくり、スポーツ活動に活かす」(27.4%)である。これら上位2項目は、受講者の個人的要望を満たすものであり、前項の受講の目的・理由とあわせて推察すると、公開講座受講者の学習ニーズの中心は、個人の自己啓発、自己実現のための学習活動であるといえる。

しかし、上位3位以下の項目は、すべて10%台であり、それらの内容は、地域の各種団体による地域活動やボランティア活動等の社会貢献活動が中心となっており、多くはないが社会貢献活動に学んだことを活かす受講者もいることが明らかになった。

表 1-9 学習成果の活用方法・内容 (N=350 M.T.=190.0)

活用方法・内容	度数	%
趣味・教養を高め、自分の生きがいや楽しみにする	249	71.1
自分の健康管理、体力づくり、スポーツ活動に活かす	96	27.4
他の人に知識や体験を伝えるなど、地域の学習活動の広がり活かす	65	18.6
自治会・PTA・地域の各種団体など、身近な地域活動に活かす	51	14.6
ボランティア活動など、社会貢献に活かす	67	19.1
いろいろな人と交流するなど、地域のネットワークづくりに活かす	54	15.4
知識や技術を高め、仕事に活かす	68	19.4
特にない	9	2.6
その他	6	1.7
合計	665	

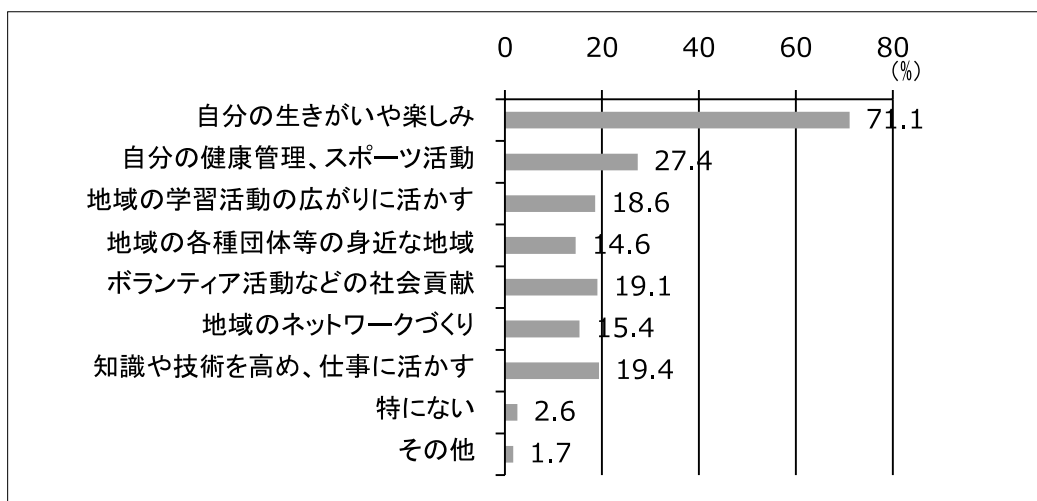


図 1-9 学習成果の活用の方法・内容

(7) 大学への学習ニーズ [質問11]

「今後、大学で学びたいこととして、どのような内容に関心があるか」という問いに対して、受講者の7割近くが「教養を高める（宗教・思想・文学・歴史・語学・考古学など）」（68.3%）を選択している。次に25ポイント以上下がって、2番目に「趣味を深める（音楽・美術・書道・陶芸・舞踊など）」（42.2%）があげられ、以下「社会・時事問題を理解する（社会経済・国際関係・環境問題・エネルギーなど）」（39.9%）、「健康管理の最新知識を学ぶ（健康法・医学・最新の治療法・栄養など）」（39.0%）が続いている。

これら上位4項目は、表・図1-10の通り、他の項目と比較して大きく突出した選択比率となっており、公開講座受講者の大学への学習ニーズの中心をなしていることが明らかになった。なお、その他の項目でも、20%前後の関心があり、身近な生活や教育の課題、また、IT技術や農業技術等の実務的内容に関心が高いことも明らかになった。

表 1-10 大学への学習ニーズ (N=341 M.T.=335.1)

学習関心内容	度数	%
趣味を深める（音楽・美術・書道・陶芸・舞踊など）	144	42.2
教養を高める（宗教・思想・文学・歴史・語学・考古学など）	233	68.3
社会・時事問題を理解する（社会経済・国際関係・環境問題・エネルギーなど）	136	39.9
健康管理の最新知識を学ぶ（健康法・医学・最新の治療法・栄養など）	133	39.0
生活の課題を理解する（消費者問題・年金・介護・保険・料理など）	84	24.6
教育問題を理解する（心理、食育、人権、青少年教育、虐待・家庭内暴力等）	73	21.4
IT社会・技術に関する学習（パソコン・インターネット・ICTなど）	76	22.3
スポーツ・レクリエーション活動（最新の指導法、競技技術など）	59	17.3
社会的活動（地域づくり・ボランティア活動・福祉活動など）	76	22.3
職業上の知識・技能（最新の研究動向、高度な技術、科学情報など）	39	11.4
農業・園芸等に関する知識・技術（食品安全、農薬、実践的な農業技術等）	85	24.9
その他	5	1.5
合計	1,146	

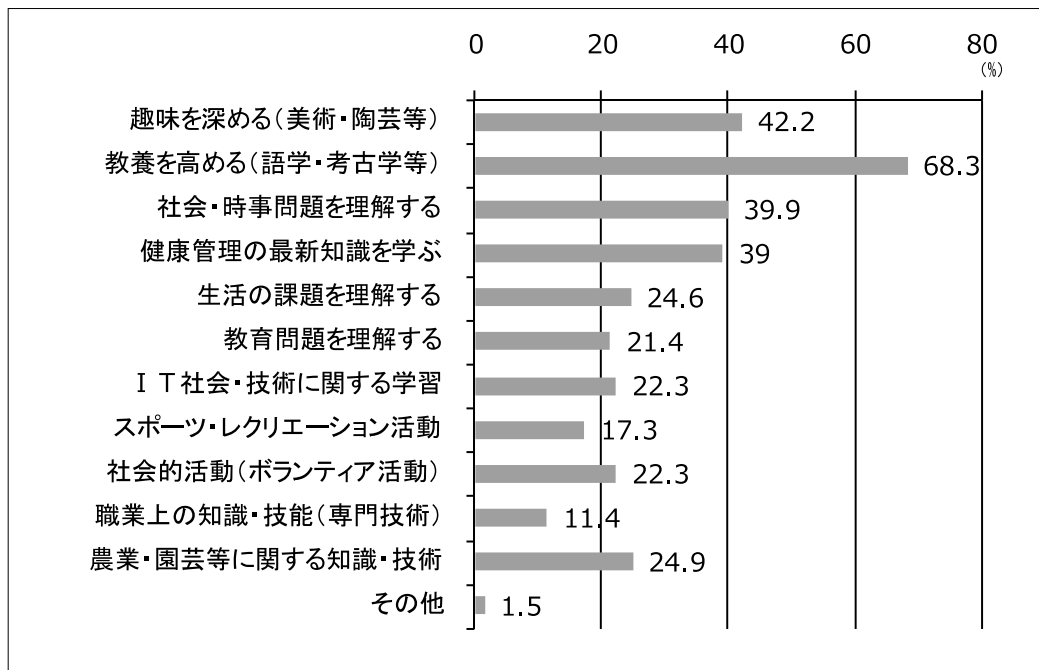


図 1-10 大学への学習ニーズ

(8) 公開講座受講の感想と要望

公開講座を受講された感想及び公開講座への要望に関し自由記述を求めたところ、166人(回答者の46.8%)から記述をいただいた。自由記述については、計量テキスト分析を行うために、川端亮と樋口耕一の両氏が開発したKH Coder 2を用いた。

1) 自由記述の頻出語の分析

回答の記述全体で358の文があり、1,056種類の語が含まれ、抽出された総単語数は5,349語であった。これらの単語の使用状況を分析し、4回以上使用されている96単語について出現回数の多い順に抽出したものが表1-11である。

(※KH Coder 2では、上位150語が抽出されるが、4回以上の単語を抽出した)

この表1-11から上位の単語を見てみると、「講座」が66回と突出した出現回数となっている。上位2位以下には、25ポイント下がって「思う」(41回)、「受講」(32回)、「楽しい」(25回)、「大変」(21回)、「今後」(20回)等の公開講座そのものと受講したことによる感想、思いを想起させられる単語とが上位を占めることとなった。また、その後の単語についても、「参加」「講義」「学ぶ」「先生」「勉強」などが引き続いて出現しており、多くの回答が公開講座に前向きな姿勢であることが推察される。

表 1-11 回答中に 4 回以上出現した単語一覧

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	講座	66	33	聞く	8	65	年度	5
2	思う	41	34	話	8	66	分かる	5
3	受講	32	35	ポイント	7	67	問題	5
4	楽しい	25	36	機会	7	68	有意義	5
5	大変	21	37	教える	7	69	お話	4
6	今後	20	38	教育	7	70	データ	4
7	参加	19	39	講師	7	71	ドイツ語	4
8	講義	16	40	子供	7	72	医療	4
9	学ぶ	15	41	授業	7	73	開催	4
10	先生	14	42	知識	7	74	楽しみ	4
11	勉強	14	43	もう少し	6	75	活動	4
12	時間	13	44	トマト	6	76	技術	4
13	続ける	13	45	パワー	6	77	研究	4
14	感謝	12	46	開く	6	78	見学	4
15	資料	12	47	希望	6	79	考える	4
16	出来る	12	48	興味	6	80	参考	4
17	今回	11	49	高齢	6	81	仕事	4
18	増やす	11	50	今日	6	82	市民	4
19	内容	11	51	難しい	6	83	指導	4
20	学生	10	52	毎回	6	84	重なる	4
21	健康	10	53	回数	5	85	情報	4
22	知る	10	54	学べる	5	86	説明	4
23	地域	10	55	学習	5	87	専門	4
24	お願い	9	56	楽しむ	5	88	増える	4
25	お世話	9	57	感じる	5	89	駐車	4
26	良い	9	58	喜ぶ	5	90	丁寧	4
27	次回	8	59	嬉しい	5	91	得る	4
28	社会	8	60	後期	5	92	特に	4
29	受ける	8	61	残念	5	93	年間	4
30	初めて	8	62	自分	5	94	非常	4
31	多い	8	63	少し	5	95	利用	4
32	大学	8	64	多く	5	96	歴史	4

※ K HCoderの分析では、活用する語は動詞、形容詞、形容動詞にかかわらず、すべて基本形で抽出される。

今後、これらの上位に上がってきている単語の関連語検索を行うことが必要であり、記述されている文書を確認することで講座受講の感想や思い、希望等を把握でき、今後の公開講座のあり方を考える上で貴重な意見を得ることができる。

次に、関連語検索で前述の上位の単語「思う」「楽しい」「大変」「参加」に関連の高い文を抽出すると下記のような肯定的な文、感謝の文、希望や要望を記述した文が確認できたので下記に示す。(358文書抽出の一部)

「思う」

- ・先生や学生の方が親切で熱心に講座をすすめて下さるので、毎回楽しく参加しています。予習・復習しながら続けて行きたいと思えます。
- ・今後も石見の中世について見聞したい。更に、費用を要しても実地踏査等組込みたいと思えます。

「楽しい」

- ・今回の講座は毎回講師の方々の話も興味深く、また、見学もできて大変楽しく充実したものでした。次回はこれを受けてさらに深く学べる講座ができれば(半年又は通年で)とてもうれしいです。鳥根の茶碗にもいろいろな焼き方があると伺い、それぞれ比較しながら学びたいと思っています。できれば作陶も経験したいです。
- ・毎回楽しく参加させて頂きました。実験が多くて子供があきないものばかりで次回も続けて受講させたいです。先生、学生の皆様ありがとうございます。

「大変」

- ・講座によっては学生たちとの意見交換等の機会があっても面白いかなと思えます。シニアですから無理かな?教授が大変ですね。
- ・修了証をいただくことは予想外でした。有難うございました。大変な中ですが、公開講座は高齢化社会の時代に不可欠な貢献と存じます。

「参加」

- ・硬式テニス以外のスポーツ～卓球、バドミントンなどの教室とかもあると、子供や私も参加してみたいです。
- ・子供と一緒に参加できる講座も増えることを希望します。
- ・平日の夜間、土曜日、日曜日、祝日等、仕事の時間以外に開講されるものが増えると参加しやすくなる。そのような時間帯のメニューを増やしていただきたい。理系の工学・技術的な講座も増やしてほしい。

2) 抽出した単語の出現パターンによる分析

上記の上位抽出語の中で9回以上出現した単語の出現パターンを調べ、その似通ったものを線で結んで示すと図1-11のようなになる。円の大きさは、出現回数の多さを示し、各円を結ぶ線の太さは、共起の程度の強い関係を示している。

単語の出現パターンを分析してみると、中心になる単語を軸に、5つの共起グループに分けることができる。これらは、以下のようになる。

- (1) 「受講」を中心に、「講座」「思う」「今後」「参加」など
- (2) 「先生」を中心に、「学生」「楽しい」「学ぶ」「続ける」「ありがとう」など
- (3) 「内容」を中心に、「出来る」「資料」「大変」「良い」「感謝」など
- (4) 「今回」を中心に、「知る」「お世話」など
- (5) 「時間」と「増やす」、「講義」と「健康」

これらの単語グループから考察すると、受講者の思いや希望・期待は、例えば、(1)では「講座」を受講することを今後も継続すること期待している。また、(2)は「先生」「学生」を交えた喜びを感じ感謝している。(3)は講座の「内容」について、「地域」や「資料」に関し「勉強」できることに「大変」「感謝」していること。(4)は「今回」「知る」ことができたことに感謝し「お世話」になりましたと表現している。(5)は今後の要望事項となると考察できます。

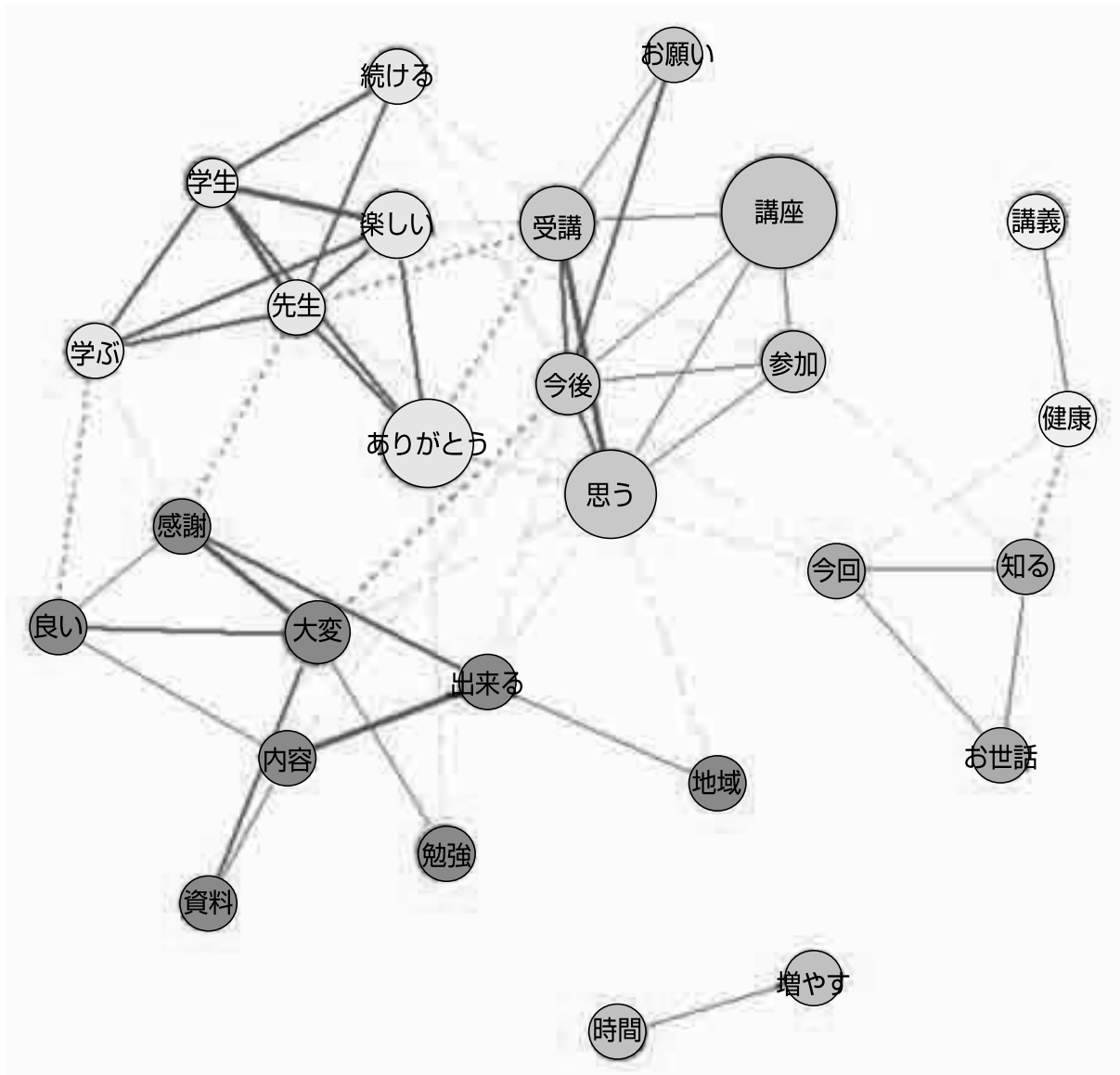


図1-11 出現上位単語の共起ネットワーク

2. 「公開授業」受講者の調査結果

(1) 受講者の属性と特徴

1) 性別

受講者の性別は、表・図 1-1 のとおり、男性が72.2%、女性が27.8%となり、男性の受講者が女性受講者の2.6倍以上の比率になっており、男性の受講者が中心となっている。

表 2-1 受講者の性別

性別	人数	%
男性	78	72.2
女性	30	27.8
合計	108	100.0

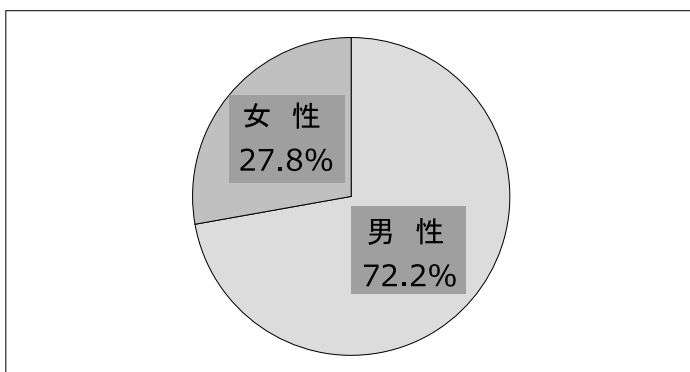


図 2-1 受講者の性別

2) 年代

受講者の年代は、表・図 2-2 のとおり、60歳代が最も多く54.6%であり、受講者の中核的な年代になっている。次が70歳代で25.0%、80歳代以上が8.3%となっている。受講者の年代は高齢者が中心で60歳代以上が全体の87.9%を占めている。

公開授業は、学生教育の授業の一部を一般市民に開放し学生とともに受講するものであり、平日の講義が中心となる。そのため、一般就労者は少なく、退職後の無職の方や、パート職やアルバイト職の方、また主婦・主夫の方が中心の受講者構成となっている。

表 2-2 公開授業受講者の年代

年代	度数	%
20歳未満	0	0.0
20歳代	0	0.0
30歳代	0	0.0
40歳代	7	6.5
50歳代	6	5.6
60歳代	59	54.6
70歳代	27	25.0
80歳以上	9	8.3
合計	108	100

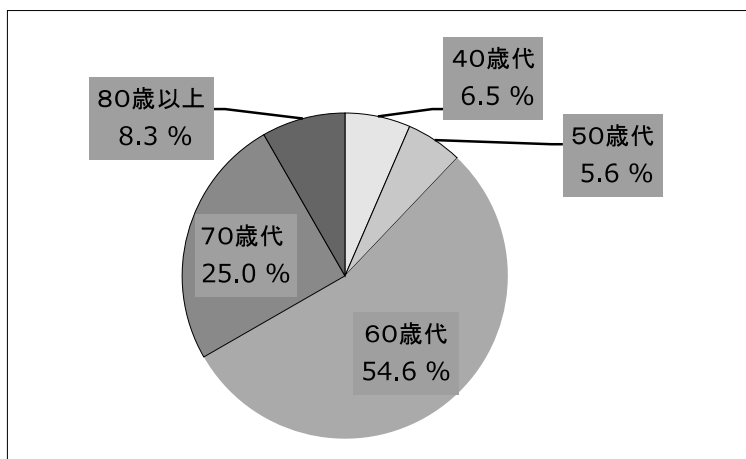


図 2-2 公開授業受講者の年代

3) 職業

受講者の職業は、表・図 2-3 から無職が最も多く57.4%で、次が主婦・主夫と自営業で、それぞれ14.8%となっている。この上位3者で受講者全体のおよそ9割近く（87.0%）を占めているが、その中でも、無職の方が全体の6割近くを占める状況にある。

表 2-3 公開授業受講者の職業比率

職種・職業	度数	%
自営業	16	14.8
主婦・主夫	16	14.8
無職	62	57.4
団体職員	4	3.7
会社員	3	2.8
農林漁業従事者	1	0.9
公務員	0	0.0
パート・アルバイト	5	4.6
学生	0	0.0
その他	1	0.9
合計	108	100

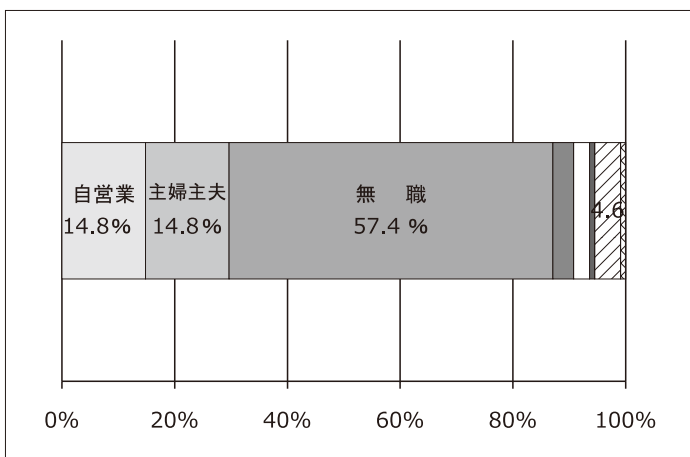


図 2-3 公開授業受講者の職業比率

(2) 公開授業の情報の取得方法

公開授業の受講に関する情報取得は、表・図 2-4 の通り、本センターが配布している「案内小冊子」が68.5%で全体の7割近くを占めている。次に、「新聞折込募集チラシ」(29.6%)、「センター・ホームページ」(19.4%)と続いている。

回答の結果から、次の受講経験と関係するが、公開授業受講者は、公開講座よりリピーターがさらに多く、事前に配布される「案内小冊子」や「センターHP」を積極的に利用していると推察される。

表 2-4 講座情報収集の方法

情報源	度数	%
大学ホームページ	21	19.4
受講者募集案内冊子	74	68.5
新聞折込募集チラシ	32	29.6
新聞記事	1	0.9
テレビ・ラジオ等の告知	0	0.0
施設への配置チラシ	11	10.2
市町村の広報	4	3.7
クチコミ	10	9.3
その他	3	2.8
合計	156	100

(N=108 M.T.=147.2)

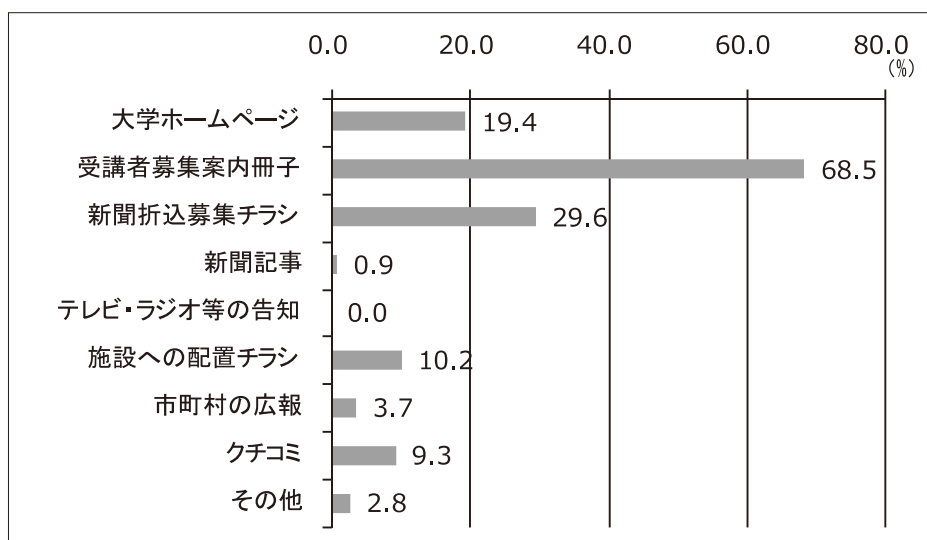


図 2-4 受講者の講座情報収集の方法

(3) 公開授業受講生の交通手段【質問6】

公開授業受講者の来校のための交通手段は、自家用車の利用が中心で、およそ全体の3分の2を占め、63.8%となっている。その他の交通手段は、バス・電車等の公共交通機関（14.3%）と自転車（10.5%）、徒歩（10.5%）と10%代となっている。受講者の交通手段は、公開講座受講者の場合と同様に、移動手段として利便性の高い車がその中心となっており、駐車場の少ない本学にとって、来校の交通手段は大きな課題となっている。

表 2-5 公開授業受講者の交通手段

交通手段	人数	%
公共交通機関	15	14.3
自家用車	67	63.8
自転車	11	10.5
車での送迎	1	0.9
徒歩	11	10.5
その他	0	0.0
合計	105	100

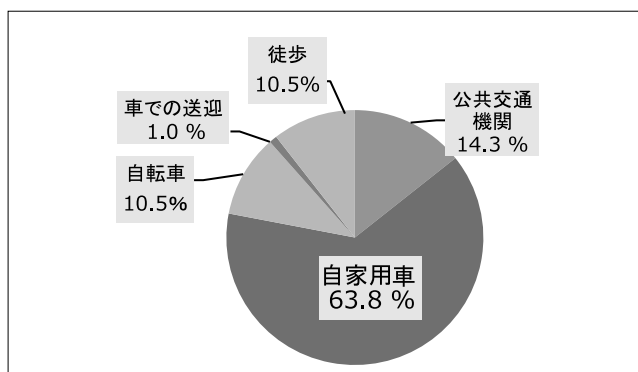


図 2-5 公開講座受講者の交通手段

(4) 公開授業の受講経験【質問7】

受講者の受講経験は、初めての方が23.4%、2回目が12.1%、3回目以上の方が64.5%となっており、2回目以上のリピーター受講者がおよそ4分の3を占めている。このリピーターの多さが、法人化後、毎年、公開授業受講者が増加している大きな要因になっていると考察される。

表 2-6 受講経験

経験回数	度数	%
初めて（初回）	25	23.4
2回目	13	12.1
3回以上	69	64.5
合計	107	100

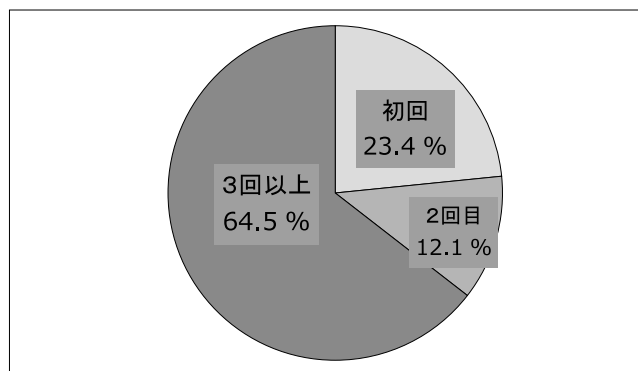


図 2-6 公開授業受講者の受講経験

(5) 公開授業の受講理由

公開授業受講者の受講理由は、表・図 2-7 のとおり、8割近い受講者が「興味ある内容の講座があるため」（79.6%）を選択している。次は、20ポイントほど下がって、「退職後の余暇の充実のため」（41.7%）、「心のハリや生きがいを味わうため」（40.7%）が続いている。その他の項目は、さらに10ポイント以上下がっており、上位の4項目が公開授業受講者の受講理由を特徴的に表しているものと推察される。

(N=108 M.T.=375.0)

表 2-7 公開授業受講者の受講理由

受講理由	度数	%
幅広い教養を身につけるため	65	60.2
専門的な知識や技術を学ぶため	30	27.8
時代や社会の変化に遅れないため	28	25.9
いろいろな人と交流するため	15	13.9
興味のある内容の講座があるため	86	79.6
友人・知人にすすめられたため	2	1.9
話を聞いてみたい講師がいるため	11	10.2
退職後の余暇の充実のため	45	41.7
仕事に役立つ資格を取得するため	2	1.9
心のハリや生きがいを味わうため	44	40.7
地域活動等の地域貢献に活かすため	15	13.9
生活の時間に余裕ができたため	32	29.6
大学の雰囲気味わうため	28	25.9
その他	2	1.9
合計	405	

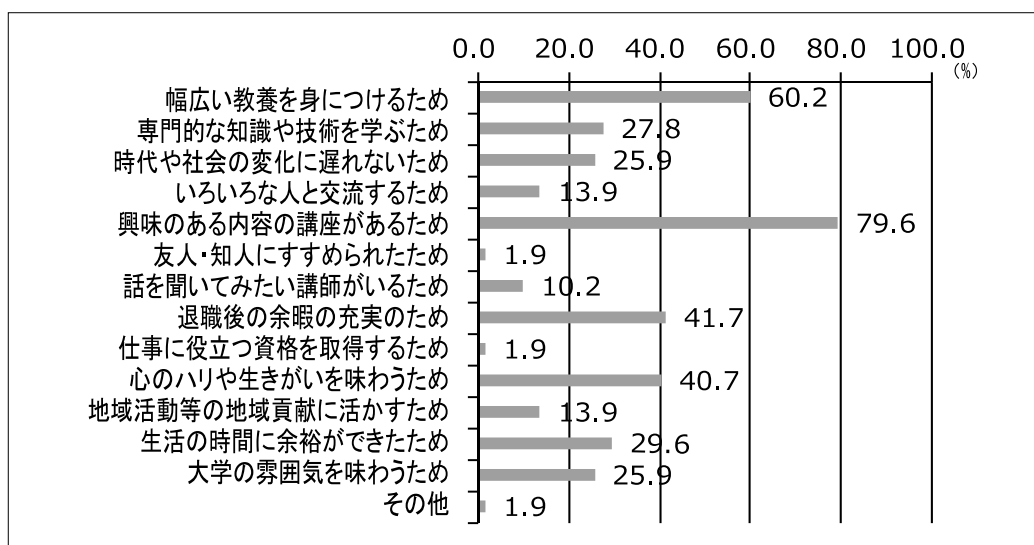


図 2-7 公開授業の受講理由

(6) 学習成果の活用の方法・内容 [質問10]

「公開講座で学んだことをどのように活かすか」という問いに対して、公開授業受講者のおよそ9割にあたる88.9%が「趣味・教養を高め、自分の生きがいや楽しみにする」と回答している。この回答以外は、65ポイント以上も下がって「ボランティア活動など、社会貢献に活かす」が21.3%で2番目に、次に「いろいろな人と交流するなど、地域のネットワークづくりに活かす」が20.4%で3番目に続いている。上位3位以下の項目は、すべて10%台以下となっている。

公開授業受講者の「学んだことをどのように活かす」という問いには、前項の受講の理由とあわせて推察すると、公開講座受講者の学習ニーズは、「個人の自己啓発、自己実現のための学習活動である」といえる。

表 2-8 学習成果の活用方法・内容

活用方法・内容	度数	%
自分の生きがいや楽しみ	97	89.8
自分の健康管理、スポーツ活動	8	7.4
地域の学習活動の広がり活かす	20	18.5
地域の各種団体等の身近な地域活動	8	7.4
ボランティア活動などの社会貢献	23	21.3
地域のネットワークづくり	23	21.3
知識や技術を高め、仕事に活かす	13	12.0
特にない	4	3.7
その他	1	0.9
合計	197	

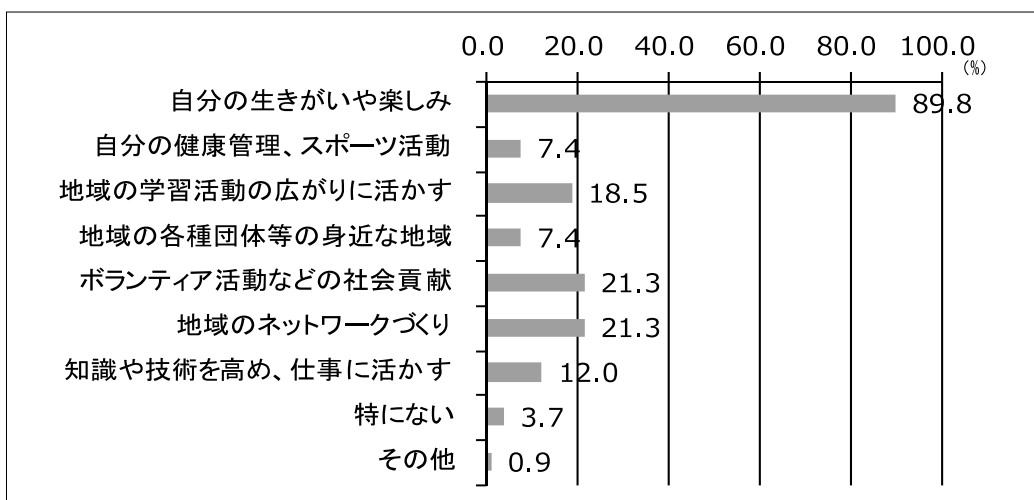


図 2-8 学習成果の活用方法・内容

(7) 大学への学習ニーズ [質問11]

「今後、大学で学びたいこととして、どのような内容に関心があるか」という問いに対して、9割以上の回答者が「教養を高める（宗教・思想・文学・歴史・語学・考古学など）」(91.6%)を選択している。次に30ポイント以上差がついて、2番目に「社会・時事問題を理解する（社会経済・国際関係・環境問題・エネルギーなど）」(57.9%)があげられ、さらに、20ポイント近く下がって、3番目に「趣味を深める（音楽・美術・書道・陶芸・舞踊など）」(29.9%)が続いている。上位3位以外の項目は、すべて20%以下のポイントになっている。(表・図 2-9)

表 2-9 大学への学習ニーズ (N=107 M.T.=275.71)

学習 関心 内容	度数	%
趣味を深める (音楽・美術・書道・陶芸・舞踊など)	32	29.9
教養を高める (宗教・思想・文学・歴史・語学・考古学など)	98	91.6
社会・時事問題を理解する (社会経済・国際関係・環境問題・エネルギーなど)	62	57.9
健康管理の最新知識を学ぶ (健康法・医学・最新の治療法・栄養など)	16	15.0
生活の課題を理解する (消費者問題・年金・介護・保険・料理など)	16	15.0
教育問題を理解する (心理、食育、人権、青少年教育、虐待・家庭内暴力等)	17	15.9
I T 社会・技術に関する学習 (パソコン・インターネット・ICTなど)	11	10.3
スポーツ・レクリエーション活動 (最新の指導法、競技技術など)	0	0.0
社会的活動 (地域づくり・ボランティア活動・福祉活動など)	17	15.9
職業上の知識・技能 (最新の研究動向、高度な技術、科学情報など)	11	10.3
農業・園芸等に関する知識・技術 (食品安全、農薬、実践的な農業技術等)	14	13.1
その他	1	0.9
合計	295	

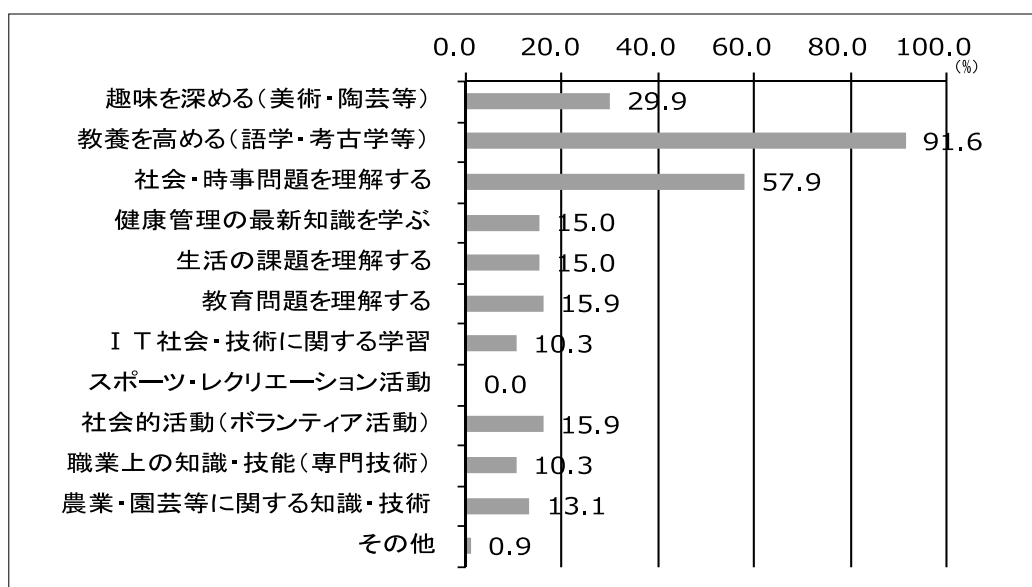


図 2-9 大学への学習ニーズ

(8) 公開授業受講の感想と要望 (自由記述)

講座を受講された感想や講座への要望等について、自由記述で求めたところ、68人 (回答総数の63.0%) から回答をいただいた。自由記述については、計量テキスト分析を行うために、川端亮と樋口耕一の両氏が開発したKH Coder 2を用いた。

1) 自由記述の頻出語の分析

回答全体で133の文があり、647種類の語が含まれ、抽出された総単語数は2,522語であった。これらの単語の使用状況を分析し、3回以上使用されている単語について出現回数の多い順に抽出したものが表 2-10である。

(※KH Coder 2では、上位150語が抽出されるが、3回以上の単語を抽出した)

表 2-10から上位の単語は、「授業」(41回)、「受講」(31回)、「講座」(28回)等の公開授業を直接表現する単語が占めている。次点に「思う」が出現した後、「公開」「先生」「学生」「内容」「後期」「時間」「大学」等の公開授業の受講することに係る単語が連なっており、受講者が公開授業を受けたことの影響が記述した単語に表出していると推察される。また、出現頻度の高い上位の単語の中には、批判的、否定的な意味合いの単語がほとんど見られないことから、公開授業は、おおかたの受講者に前向きな学習形態として受け入れられていると思われる。

表 2-10 回答の記述中に出現頻度の高かった単語（3回以上）

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	授業	41	24	続ける	5	47	継続	3
2	受講	31	25	問題	5	48	現代	3
3	講座	28	26	歴史	5	49	考える	3
4	思う	28	27	もう少し	4	50	今	3
5	公開	19	28	科学	4	51	昨年	3
6	先生	13	29	開設	4	52	参加	3
7	学生	10	30	感じる	4	53	自分	3
8	内容	10	31	今回	4	54	受ける	3
9	後期	9	32	時代	4	55	小冊子	3
10	時間	9	33	深い	4	56	少ない	3
11	大学	9	34	専門	4	57	是非	3
12	感謝	8	35	特に	4	58	設ける	3
13	科目	7	36	年	4	59	増やす	3
14	楽しい	6	37	勉強	4	60	多い	3
15	講義	6	38	良い	4	61	地域	3
16	大変	6	39	以前	3	62	分野	3
17	お願い	5	40	学習	3	63	文学	3
18	開講	5	41	希望	3	64	聞く	3
19	関係	5	42	期待	3	65	又	3
20	今後	5	43	機会	3	66	予定	3
21	充実	5	44	教育	3	67	理解	3
22	出来る	5	45	興味	3	68		
23	前期	5	46	近く	3	69		

※KHCoderの分析では、活用する語は動詞、形容詞、形容動詞にかかわらず、すべて基本形で抽出される。

なお、これらの上位に上がってきている単語の関連語検索を行うことが必要であり、記述されている文書を確認することで講座受講の感想や思い、希望等を把握でき、今後の公開講座のあり方を考える上で貴重な意見を得ることができると思われる。さらに、批判的、否定的な意味合いも含めて、公開授業への思いを表現している「思う」「お願い」「もう少し」「感じる」「特に」などの単語は、「思う」を除けば5回以下であり出現回数も少ない状況にあるが、これらも関連語検索を行うことで記述されている文書を確認することで、公開講座のあり方を考える貴重な意見を得ることができる。

次に、出現回数の上位の単語、「授業」「受講」「内容」の関連語検索で関連の高い文を抽出すると下記のような意見が確認できる。また、出現回数は少ないが、公開授業への思いを表現している単語、「思う」「お願い」「もう少し」「感じる」「特に」などに関連の高い文を抽出すると下記のような想いの内容が確認できたので、下記に示す。(133文書の抽出の一部)

「授業」「受講」

- ・23年後期から公開授業を受講しております。開講授業が長期的に固定すると次に受講する科目がなくなりますので、3～4年に1度は開講講座の入れ替えが必要と思います。中には10年近く継続受講の方もあり、同じ先生の講義を何度も受講している様です。

「内容」

- ・自己都合で全ての講座に出席出来なかったが、それでも満足している。内容もとても良く、充実した時間だった。機会があれば又受講してみたい。

「思う」

- ・毎回出席できない事もあり、申訳なく思って居りますが、先生の講義はとっても素晴らしく心にしみるような思いです。学ばせて戴いて感謝しています。

「お願い」

- ・宗教、思想、哲学についての公開授業を願いします。授業料はもっと高くてもよいと思います。
- ・現在消費者問題関連の公的な資格取得をめざして勉強中ですので「消費者問題の講座」をぜひ開講していただければと思います。この問題は現役の学生さんにも勉強する事はこれからの時代ますます重要な事だと考えます。ぜひご検討ください。25前期も受講する予定です。よろしく願いします。

「もう少し」

- ・初めて公開授業（プレートテクトニクス）を受けました。予想以上に興味深く、楽しく受講させていただきました。感謝しています。もう少し理系があったらと思います。今年前期も受講させていただきたいと思います。

「感じる」

- ・今回、初めて公開授業に参加しましたが、授業内容がとても工夫されており、分かりやすく、とても良かったです。只、教授の方が朝の挨拶をされる時、学生の返礼の挨拶する人が少ないように感じ、物足りなく思いました。

「特に」

- ・現代に関係の深い、特に戦後の政治、外交の歴史を掘り下げた講座があればありがたいのですが。
- ・特に後期授業は授業数が少なくなっていますが授業数を増やしてほしいと思います。

2) 抽出した単語の出現パターンによる分析

上記の上位抽出語の中で6回以上出現した単語の出現パターンを調べ、その似通ったものを線で結んで示すと図2-10のようなになる。円の大きさは、出現回数の多さを示し、各円を結ぶ線の太さは、共起の程度の強い関係性を示している。

単語の出現パターンを分析してみると、中心になる単語を軸に、4つの共起グループに分けることができる。これらは、以下のようになる。

- (1) 「講座」を中心に、「受講」「大変」「楽しい」など
- (2) 「授業」を中心に、「公開」「講義」「科目」「後期」など
- (3) 「思う」を中心に、「先生」「学生」「大学」「感謝」など
- (4) 「時間」「内容」

これらの単語グループについて考察すると、受講者の思いや希望・期待は、(1)では「講座」を「受講」することを軸に、「大変」だけれど「楽しい」との関係性を想起できる。また、(2)は「授業」を中心に、「授業」を「公開」していること、「講義」の「科目」、これらが「後期」にどのように係わるのか、その関係性が想起される。(3)は自分（受講者）が「思う」を基に、「先生」「学生」「大学」の関係と自分との係わりに「感謝」していることの関係性を示している。また、「思う」は、(1)(2)(3)のグループのつなぎハブ的役割を担っており、受講者を中心とした全体の関係性を構築しているものと推察できる。

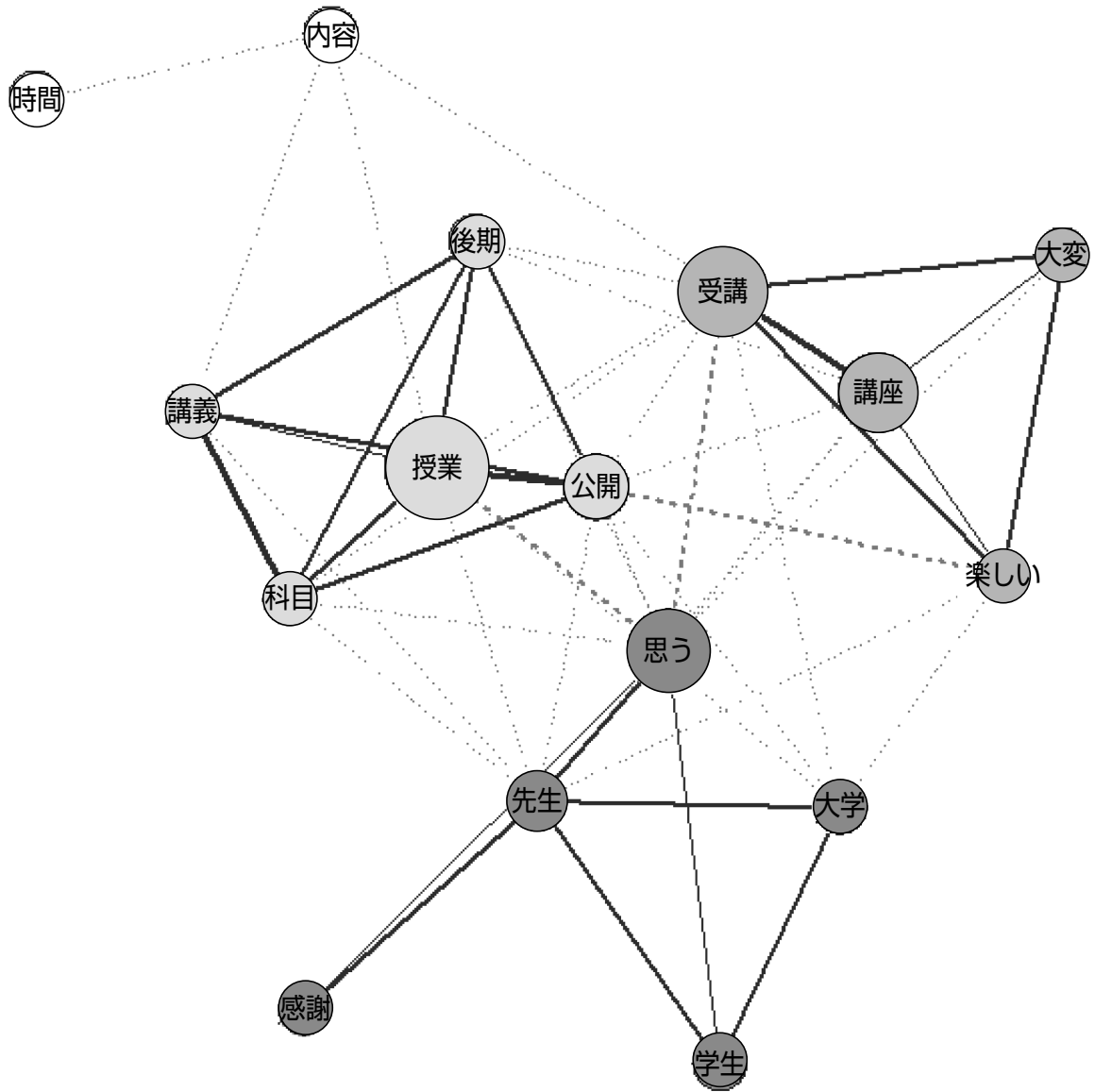


図 2-10 出現上位単語の共起ネットワーク

Ⅲ 調査結果の分析

本調査では、平成23年度に本学公開講座受講者を一つの学習集団として分析したが、平成24年度調査では、公開講座と公開授業では実施形態が全く異なっているため、公開講座受講者と公開授業受講者を別々の学習集団として分析することとした。そこで、Ⅱ章「調査結果の分析」では、公開講座と公開授業に分けて集計・分析を行い、Ⅲ章では、前章の分析に加えて、両者について、性別や年代や職業を分析の視点に多面的な考察を加え、これまでの調査の結果とあわせて、学習集団としての両者の特性を明らかにし、本学公開講座の運営の在り方の検討する参考データすることにした。

1. 受講者の学習集団としての概要と特徴

本調査の回答を寄せた受講者463名のフェイスシート・データ（質問1～4）を整理・分析してみると、島根大学公開講座の受講者集団の全体の概要は以下のようにまとめられる。（Ⅰ章の「調査の概要」再掲）

- ① 回答者は、男性261名（56.5%）、女性202名（43.5%）で若干男性の比率が高い。
- ② 回答者の年齢構成は、60歳代が一番多く196人（42.2%）で、次に70歳代が86人（18.7%）となっている。60歳以上が全体の67.2%を占めている。
- ③ 居住地区は、松江市が82.1%、出雲市が11.0%で、両市で9割を超えている。
- ④ 職業は、無職43.8%、主婦（夫）16.8%が多く、全体の6割を占めている。

これらのデータを基本としながら、公開講座の学習集団と公開授業の学習集団に分けて調査結果をさらに詳細に分析する。（表3-1参照）

(1) 公開講座受講者

1) 受講者の性別と年齢構成の特徴

公開講座受講者の性別は、回答者355人中、男性183人（51.5%）、女性172人（48.5%）とほぼ男女が半数であることは既に第Ⅱ章で示してきた。これらの男女の年齢構成については、図・表3-1から明らかに、男女とも60歳代が最大の人数を示しており、男女ともこの世代が公開講座受講者の中核となっている。

特に60歳代の男性受講者は、47.3%と男性受講者の半数近くに達しており、2番目に多い70歳代（22.0%）の2倍以上の人数となっている。また、60歳以上の男性受講者は男性全体の76.4%を占めており、60歳以上の高齢者層が学習集団の大部分を形成していることも明らかになった。

なお、23年度の調査でも受講者の性別、年齢構成等の数値について同様な結果が出ており、60歳代の男性受講者は全体の半数にあたる50.6%を占め、60歳以上の男性受講者は男性全体の75.6%を占めている。このように男性受講者の年齢構成は、複数年度に渡ってこの状態が続いており、男性受講者は、60歳以上の市民がその学習集団の中核を形成していることと推察できる。（図3-2参照）

次に、女性受講者の年齢構成の全体的特徴として、男性受講者の7割以上が60歳以上であるのに対して、60歳以上の受講者は44.1%と半数以下であり、逆に、60歳未満の受講者が平成24年度で55.9%、前年度23年度の場合でも64.9%と60歳未満の受講者が半数以上占める状態が続いている。

また、女性受講者の年齢構成については、男性受講者と同様に60歳代が28.8%で最大数だが、続く2番目の年代は6ポイント下がって50歳代が22.9%、さらに3ポイント下がって40歳代が20.0%となっている。このように40歳代から60歳代までの年代の構成人数には、さほど大きな差異はない状況にある。

そこで、40歳～60歳代までの中高年齢者を一つの学習集団と想定してみると、この40歳～60歳代の女性受講者の人数は、平成24年度で女性全体の71.7%、23年度でも74.0%と、いずれの年度も7割を超える学習集団を形成しており、これらの年代が女性受講者の中核となっているものと推察される。（図3-2参照）

以上の点から、公開講座受講者の年齢構成の特徴として、男性受講者は60歳以上の受講者が全体の7割以上を占め、60歳代、70歳代の受講者を中心に学習集団の形成している。逆に、女性受講者は、60歳未満の受講者が半数以上を占め、各年代の人数構成から、40歳代から60歳代の女性受講者を中心に学習集団を形成しているものと考察できる。（図・表3-1、図3-2）

表 3-1 公開講座・公開授業受講者の性別と年代別構成 (N=463)

	性別	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
公開講座	男性	2	2	10	19	10	87	40	13	183
		1.1	1.1	5.5	10.4	5.5	47.3	22.0	7.1	51.5
	女性	1	7	14	34	40	50	19	7	172
		0.6	4.1	8.2	20.0	22.9	28.8	11.2	4.1	48.5
	小計	3	9	24	53	50	137	59	20	355
	0.8	2.5	6.8	14.9	14.1	38.6	16.6	5.6	100	
公開授業	男性	0	0	0	0	3	49	19	7	78
		0	0	0	0	3.8	62.8	24.4	9.0	72.2
	女性	0	0	0	7	3	10	8	2	30
		0	0	0	23.3	10.0	33.3	26.7	6.7	27.8
	小計	0	0	0	7	6	59	27	9	108
	0	0	0	6.5	5.6	54.6	25.0	8.3	100	
合計	3	9	24	60	56	196	86	29	463	
	0.6	1.9	5.2	13.0	12.1	42.3	18.6	6.3	100	

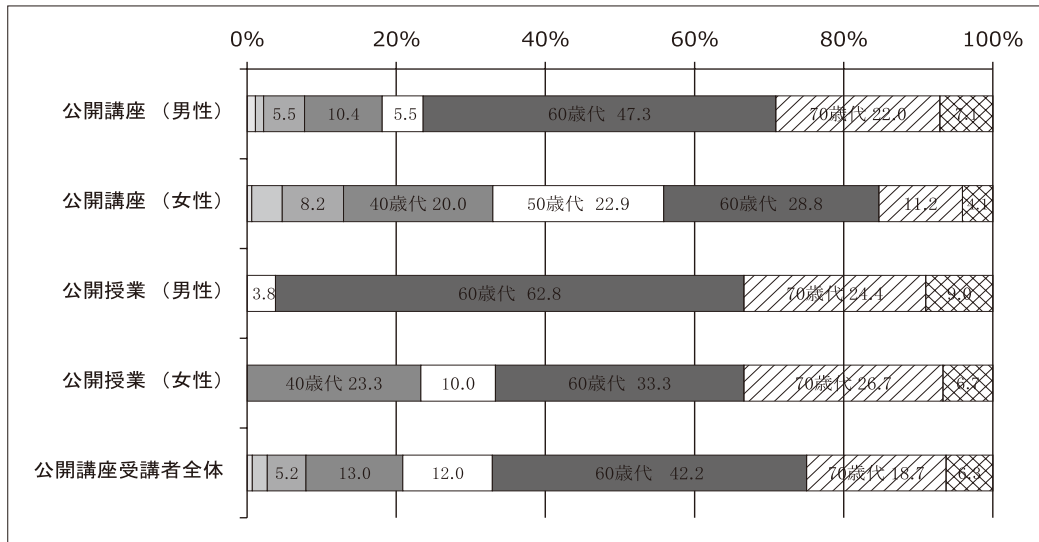


図 3-1 公開講座・公開授業の性別、年代別受講者比率 (N=463)

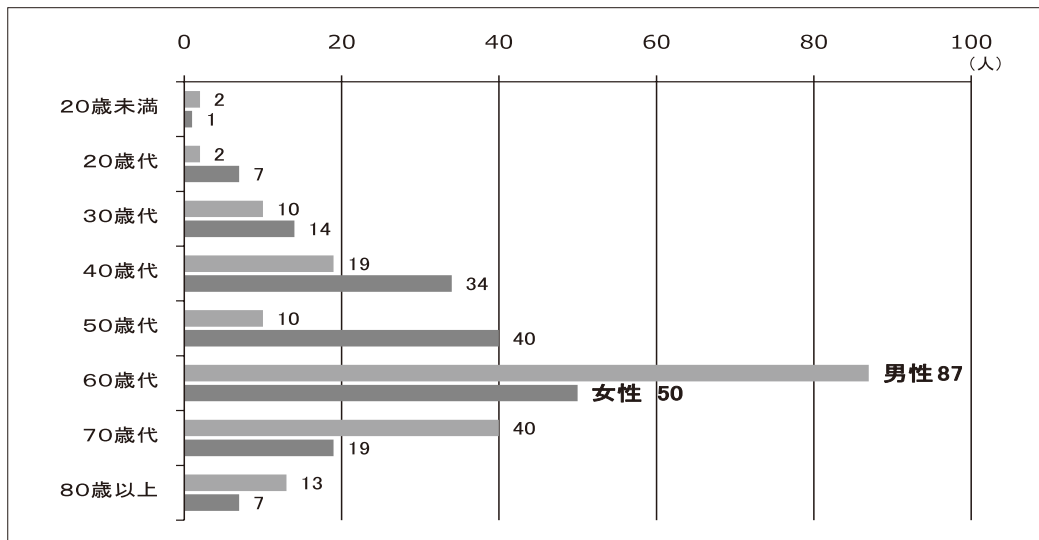


図 3-2 公開講座受講者の年齢構成 (上段：男性、下段：女性) (N=355)

2) 受講者の職業の特徴

公開講座受講生は、前項の分析の結果、男女それぞれが特徴的な年齢構成を有していることが判明した。これらの特徴と受講者の職業との関係を分析することで、性別、年齢、職業との関係が的確に捉えられ、大学公開講座受講者の学習集団の特徴をより詳細に把握できるものと考えられる。また、その結果によって、大学公開講座のあり方を考える上で大きな示唆を得るものと考えられる。

そこで、公開講座受講者の職業を性別で分類すると表3-2となる。男性受講者は、「無職」が56.3%と5割以上を占め、次点に40ポイント以上大幅に下がって「公務員」が12.6%と続いている。女性の場合には、最大が「主婦(夫)」で36.0%を占め、次に「無職」が22.1%、さらに3番目を「パートアルバイト」が13.6%、「会社員」が10.5%で続いている。公開講座受講者の職業は、全体としては「無職」と「主婦」が中心で半数を超えているが、受講者を男女で分けると男女で上位を形成する職業が異なっていることが明らかになった。

なお、総務省統計局「職業分類表」や日本標準職業分類では、「主婦」を「無職」と分類しているが、マーケティングや社会生活等のアンケートの場合は、分析上「主婦」「専業主婦」の生活実態データが重要であり、「無職」とは別途の記入を求めることが多い。本調査でも、「主婦」と「無職」は別途に扱うものとする。

表3-2 公開講座受講者の男女別の職業分類表

性別	自営業	主婦(夫)	無職	団体職員	会社員	農林漁従事者	公務員	アルバイト	学生	その他	合計
男性	7	0	103	7	19	4	23	15	1	4	183
	3.8	0.0	56.3	3.8	10.4	2.2	12.6	8.2	0.5	2.2	100.0
女性	11	62	38	4	18	0	13	23	2	1	172
	6.4	36.0	22.1	2.3	10.5	0	7.6	13.4	1.2	0.6	100
合計	18	62	141	11	37	4	36	38	3	5	355
	5.1	17.5	39.7	3.1	10.4	1.1	10.1	10.7	0.8	1.4	100.0

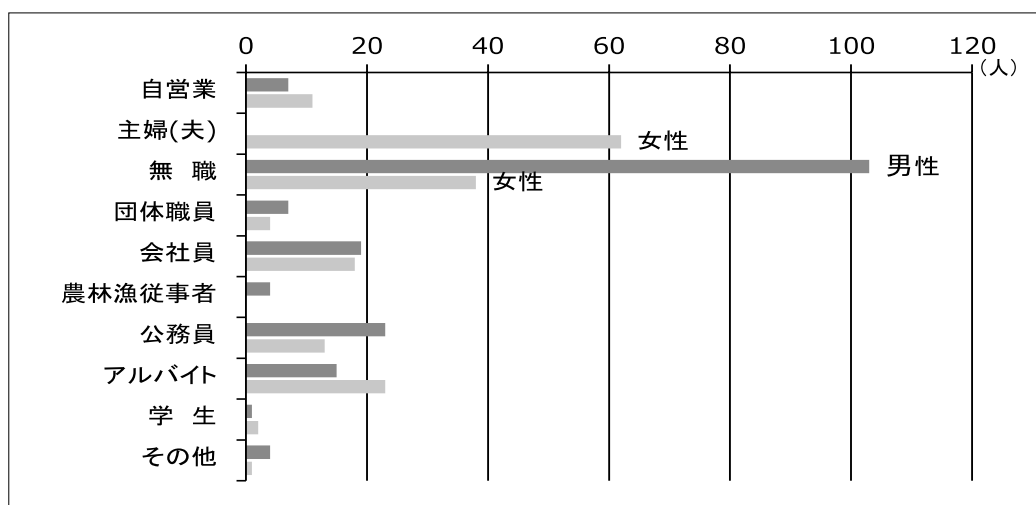


図3-3 公開講座受講者の男女別の職業分類表

表 3-3 公開講座受講者の性別・年代別・職業別構成表 (N=355)

	年代	自営業	主婦	無職	団体職員	会社員	農林漁 従事者	公務員	アルバイト	学生	その他	合計
公開講座・男性受講者	20歳未満				1					1		2
					50.0					50.0		100
	20歳代							2				2
								100				100
	30歳代				4	3		3				10
					40.0	30.0		30.0				100
	40歳代					8	1	10				19
						42.1	5.3	52.6				100
	50歳代			1	1	1		6	1			10
				10.0	10.0	10.0		60.0	10.0			100
60歳代	7		59	1	4	2		13		1	87	
	8.0		67.8	1.1	4.6	2.3		14.9		1.1	100	
70歳代			33		1	1	2	1		2	40	
			82.5		2.5	2.5	5.0	2.5		5.0	100	
80歳以上			10		2					1	13	
			76.9		15.4					7.7	100	
小計	7	0	103	7	19	4	23	15	1	4	183	
	3.8	0.0	56.3	3.8	10.4	2.2	12.6	8.2	0.5	2.2	100	
公開講座・女性受講者	20歳未満									1		1
										100		100
	20歳代			2		2		2		1		7
				28.6		28.6		28.6		14.3		100
	30歳代	3	2	1		5		2	1			14
		21.4	14.3	7.1		35.7		14.3	7.1			100
	40歳代	2	10	1	1	5		3	12			34
		5.9	29.4	2.9	2.9	14.7		8.8	35.3			100
	50歳代	5	15		3	6		6	5			40
		12.5	37.5		7.5	15		15	12.5			100
60歳代		28	17					5			50	
		56	34					10			100	
70歳代	1	7	11								19	
	5.3	36.8	57.9								100	
80歳以上			6								1	7
			85.7								14.3	100
小計	11	62	38	4	18	0	13	23	2	1	172	
	6.4	36.0	22.1	2.3	10.5	0	7.6	13.4	1.2	0.6	100	
合計	18	62	141	11	37	4	36	38	3	5	355	
	5.1	17.5	39.7	3.1	10.4	1.1	10.1	10.7	0.8	1.4	100	

※表中の空白欄は、該当する数値データが0の欄で未記入とした。

公開講座受講者の男女別の年齢構成、職業構成のそれぞれの特徴は前述のとおりだが、これらの特徴を一元的に捉え分析するために、男女別に受講者の職業構成と年齢構成のデータを組み合わせた一覧表を作成した。(前頁 表 3-3 参照)

次に、男女別に公開講座受講者の学習集団の特性を明らかにするために、男性受講者の中核の年齢である60歳～70歳代と女性の40歳～60歳代を抽出し、その年代の職業の状況を分析した。(表・図 3-4 参照)

その結果、60歳～70歳代の男性受講者総数の7割(72.4%)が「無職」であり、男性受講者全体の「無職」選択者のほぼ9割(89.3%)がこの年代に含まれている。2番目には「パートアルバイト」が11.0%で続いているが、これらも男性全体の「パートアルバイト」選択者の9割以上(93.3%)を占めている。その他、この年代においては少人数だが、「自営業」が100%、また「農林漁業従事者」の75%が含まれている。

次に、40歳～60歳代の女性受講者の42.7%が「主婦」であり、女性受講者全体の「主婦」選択者のほぼ8割(85.5%)がこの年代に含まれている。2番目には「パートアルバイト」が17.7%で続いているが、これも女性受講者の「パートアルバイト」選択者の9割以上(95.7%)を占めている。また、その後には、「無職」の選択者が14.5%で続いている。

※「主婦(夫)」は、男性が0人であることから、文章中は「主婦」とする。

表 3-4 公開講座受講者の中核的な学習集団の性別・年代別・職業別構成表 (N=251)

性別	自営業	主婦(夫)	無職	団体職員	会社員	農林漁従事者	公務員	アルバイト	学生	その他	合計
男性(60歳～70歳代)	7	0	92	1	5	3	2	14	0	3	127
(比率%)	5.5	0.0	72.4	0.8	3.9	2.4	1.6	11.0	0.0	2.4	100
(男性内の職業別比率)	100	0.0	89.3	14.3	26.3	75.0	8.7	93.3	0.0	75.0	69.4
女性(40歳～60歳代)	7	53	18	4	11	0	9	22	0	0	124
(比率%)	5.6	42.7	14.5	3.2	8.9	0.0	7.3	17.7	0.0	0.0	100
(女性内の職業別比率)	63.6	85.5	47.4	100	61.1	0.0	69.2	95.7	0.0	0.0	72.1
男女受講者の中核人数	14	53	110	5	16	3	11	36	0	3	251
(比率%)	5.6	21.1	43.8	2.0	6.4	1.2	4.4	14.3	0.0	1.2	100
(職業別男女内の比率)	77.8	85.5	78.0	45.5	43.2	75.0	30.6	94.7	0.0	60.0	70.7
講座受講者全体内比率	3.9	14.9	31.0	1.4	4.5	0.8	3.1	10.1	0.0	0.8	70.7

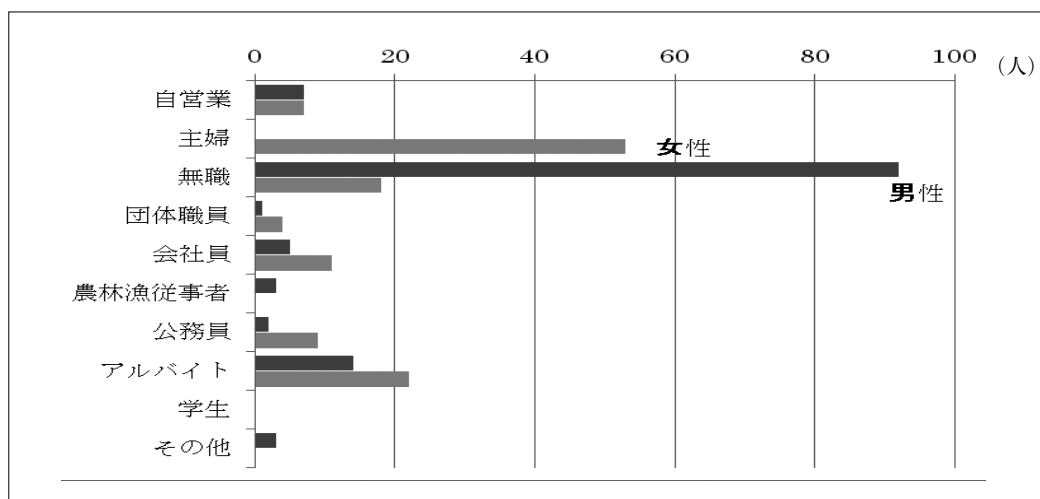


図 3-4 公開講座受講者の中核的な学習集団の性別・年代別・職業別比較図

3) 公開講座受講者の学習集団の特徴

ここまで、公開講座受講者355名の学習集団としての特徴の分析を試みてきた。特徴をまとめると以下の通りとなる。

- ① 公開講座受講者全体の概要は、男性（51.5%）、女性（48.5%）とほぼ男女が半数であるが、受講者の年齢は6割が60歳を超えている。受講者の職業は、無職（39.7%）、主婦（17.5%）が上位を占め、次に就労している「パートアルバイト」「会社員」「公務員」などが10%台で続いている。
- ② 男性受講者では、60歳～70歳代が受講者全体の7割（69.4%）を占め、学習集団の中核を形成している。この学習集団の年代層の主たる職業は、圧倒的に「無職」が多く7割（72.4%）に達している。また、男性全体の職業構成からみると、「自営業」の100.0%、「パートアルバイト」の93.3%、「無職」の89.3%、「農林漁業従事者」の75.0%がこの年代に含まれている。
- ③ 女性受講者では、40歳～60歳代の中高年齢層の女性受講者が7割（71.7%）を占めており、この年代が女性受講者の学習集団の中核を形成している。

また、この中核となる年代の受講者の主な職業は、「主婦」でその年代の4割（42.7%）を占めている。その他に、「パートアルバイト」（17.7%）、「無職」（14.5%）が続き、「会社員」「公務員」「自営業」等の職業は10%以下の比率となっている。

一方、女性受講生全体の職業構成からみると、この学習集団の年代に「自営業」の63.6%、「主婦」の85.5%、「団体職員」の100.0%、「会社員」の61.1%、「公務員」の69.2%、「パートアルバイト」の95.7%が含まれている。

- ④ 公開講座受講生の学習集団の中核を形成している男女受講生の主な職業とその占有率は、「自営業」の77.8%、「主婦」の85.5%、「無職」の78.0%、「農林漁業従事者」の75.0%、「パートアルバイト」の94.7%等となっている。この学習集団の中核と形成している受講者にはリピーターも多く、複数の講座を受講するなど積極的に学習活動に取り組んでいる。一方、今後、地域社会のニーズや市民の要望等を踏まえて公開講座のあり方を検討するにあたっては、この学習集団の大部分を形成している中高年齢者層のニーズは重要であるが、人数的には3割（29.3%）と少ないが、就労している「団体職員」「会社員」「公務員」や「学生」等、時間的に制約のある40歳未満の若年齢層の受講者のニーズにも注目することが必要と考えられる。

（①～④：表・図3-1～表・図3-4参照）

(2) 公開授業受講者

1) 受講者の性別と年齢構成の特徴

公開授業受講者の学習集団は、男性が約7割（72.2%）、女性が約3割（27.8%）を占めている。また、年齢構成は、60歳以上の中高年齢者がほぼ9割（88.0%）を占め、60歳未満は1割強（12.0%）と少数となっている。

特に、男性受講者は、50歳未満は0人で、50歳代も3人（3.8%）いるだけで、残りの96.2%はすべて60歳以上となっている。また、60歳代は62.8%、70歳代が24.4%と両年代で9割近くを占め、男性受講者の中核を形成している。

一方、女性受講者も40歳未満が0人で、60歳以上の受講者が66.7%と7割近いが、40歳代と50歳代で3割（33.3）の受講者が存在しており、特定の年代に偏らない分布の年齢構成となっている。（表・図4-1参照）

表 4-1 公開授業受講者の性別と年代別構成 (N=108)

	性別	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	合計
公開授業	男性	0	0	0	0	3	49	19	7	78
		0	0	0	0	3.8	62.8	24.4	9.0	72.2
	女性	0	0	0	7	3	10	8	2	30
		0	0	0	23.3	10.0	33.3	26.7	6.7	27.8
	小計	0	0	0	7	6	59	27	9	108
		0	0	0	6.5	5.6	54.6	25.0	8.3	100

※ (上段：人数、下段：男性・女性・全体の中の比率 (%))

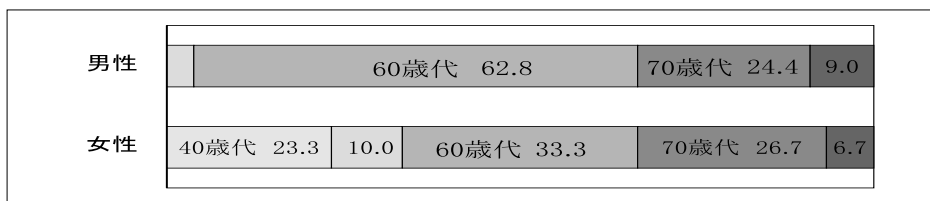


図 4-1 公開授業受講者の年齢構成 (N=108)

2) 受講者の職業の特徴

公開授業受講生は、前項の分析で、男女それぞれが特徴ある年齢構成であることが明らかになった。特に男性の場合は、ほぼ全員に近い96.2%の受講者が60歳以上であり、その中で60歳代が6割(62.8%)を占めている。この年齢構成の特徴、受講者の職業、性別の関係を分析することで、公開授業の受講者の特徴をより明確に把握できるものと考えられる。

公開授業受講者の職業に関し注目すべき点は、受講者の職業に偏りがあり、一人も属さない職業が半数以上ある。例えば、男性は「主婦(夫)」「公務員」「学生」など3職種、女性は「団体職員」「会社員」「農林漁業従事者」「公務員」「学生」など5職種が0人となっている。(表・図4-2)

さらに実際の職業構成は、男性では、「無職」が73.1%と7割以上を占め、次点は60ポイントと大幅に下がって「自営業」が12.8%と続いている。他の職業は全て10%以下の比率となっている。女性では、「主婦」が最大で53.3%と5割を超え、次に「自営業」が20.0%、さらに「無職」が16.7%、「パートアルバイト」が10.0%で続いている。その他の職業には1人もいない。

以上、公開授業受講者の職業は、全体としては「無職」が中心で5割を超えているが、受講者を男女で分けると、男性では「無職」が7割を、女性では「主婦」が5割を超え、それぞれ上位を形成する職業が異なっていることが明らかになった。(図・表4-2)

表 4-2 公開授業受講者の男女別の職業分類表 (N=108)

性別	自営業	主婦(夫)	無職	団体職員	会社員	農林漁従事者	公務員	アルバイト	学生	その他	合計
男性	10	0	57	4	3	1	0	2	0	1	78
	12.8	0.0	73.1	5.1	3.8	1.3	0.0	2.6	0.0	1.3	100.0
	62.5	0.0	91.9	100.0	100.0	100.0	0.0	40.0	0.0	100.0	72.2
女性	6	16	5	0	0	0	0	3	0	0	30
	20.0	53.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	100
	37.5	100.0	8.1	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	27.8
合計	16	16	62	4	3	1	0	5	0	1	108
	14.8	14.8	57.4	3.7	2.8	0.9	0.0	4.6	0.0	0.9	100.0

※ (上：人数、中：男性女性それぞれ全体の比率 (%)、男女全体中の比率 (%))

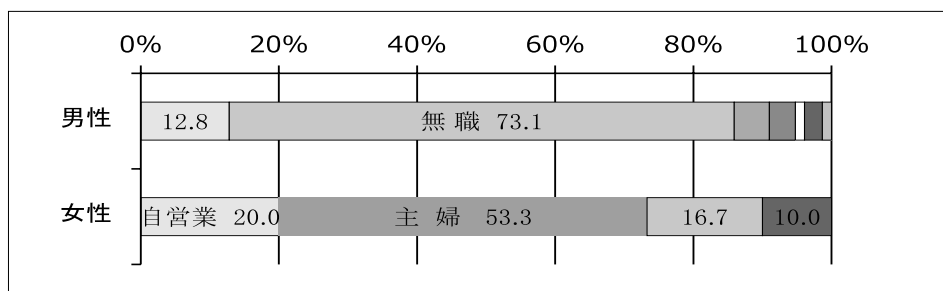


図 4-2 公開授業受講者の男女別の職業構成比率

公開授業受講者の男女別年齢構成、職業構成のそれぞれの特徴は前述のとおりであるが、公開授業受講者の男女の学習集団の特性を明確にするために、男女別に受講者の職業構成と年齢構成のデータを組み合わせた一覧表及び男女別の年齢・職業構成図を下記のように作成した。(表・図 4-3、図 4-4 参照)

表 4-3 公開授業受講者の性別・年代別・職業別構成表 (N=108)

		年代	自営業	主婦	無職	団体職員	会社員	農林漁従事者	公務員	アルバイト	学生	その他	合計
男	50歳代		0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3
			0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	100.0
	60歳代		8	0	35	1	3	0	0	1	0	1	49
			16.3	0.0	71.4	2.0	6.1	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	100.0
	70歳代		2	0	14	3	0	0	0	0	0	0	19
			10.5	0.0	73.7	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
80歳以上		0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	7	
		0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
小計		10	0	57	4	3	1	0	2	0	1	78	
		12.8	0.0	73.1	5.1	3.8	1.3	0.0	2.6	0.0	1.3	100.0	
女	40歳代		3	1	0	0	0	0	0	3	0	0	7
			42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0	0.0	100.0
	50歳代		1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
			33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	60歳代		1	7	2	0	0	0	0	0	0	0	10
			10.0	70.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	70歳代		1	5	2	0	0	0	0	0	0	0	8
			12.5	62.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
80歳以上		0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	
		0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
小計		6	16	5	0	0	0	0	3	0	0	30	
		20.0	53.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	100.0	
合計		16	16	62	4	3	1	0	5	0	1	108	
		14.8	14.8	57.4	3.7	2.8	0.9	0	4.6	0	0.9	100	

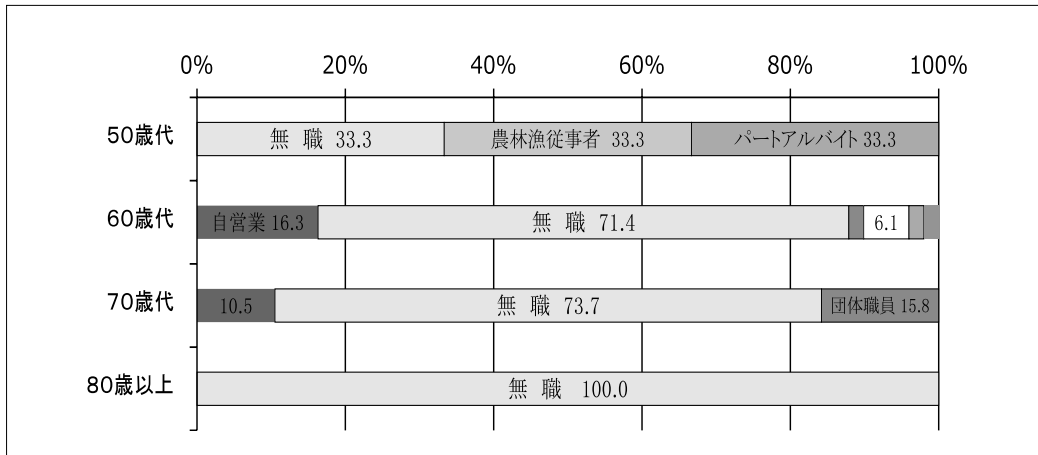


図 4-3 公開授業受講者の男性の年代別・職業別構成図 (N=78)

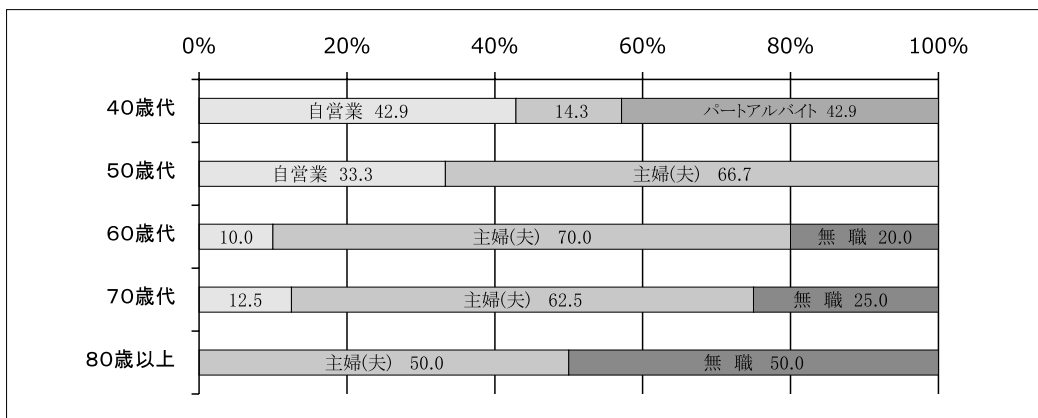


図 4-4 公開授業受講者の女性の年代別・職業別構成図 (N=30)

性別、年齢、職業の関係を分析すると、表・図 4-3、図 4-4 から明らかなように、男性の場合、50歳未満の受講者はいない。一方、50歳代は、少人数ではあるが「無職」「農林漁業従事者」「パートアルバイト」等の職業に就いており、60歳代になると一気に「無職」が7割を超え、男性受講者の職業の中心となっている。

女性の場合も、40歳未満の受講者はいない。しかし、40歳代は、少人数ではあるが「自営業」「無職」「パートアルバイト」等の職業に就いており、50歳代では一気に「主婦」の割合が増え6割を超えてくる。60歳以上では、「主婦」の割合はさほど増えないが、「無職」の受講者が60歳代で初めて出現し、その後年代ごとに増加している。50歳代で「主婦」が大幅に増えることは、子どもが成長し「子育て」が一段落することと関係しているのではないかと推察される。また、これまで、男性退職者が退職後の時間の活用で大学公開講座などを受講する傾向は従来から指摘されてきているが、女性受講者においても60歳代以降に「無職」の受講者が出現したことは、それまで何らかの職業に就労して60歳になって退職した女性の方々が増えてきたのではないかと推察される。

3) 公開授業受講者の特徴

公開授業受講者108名のフェイスシート・データを基に、学習集団としての特徴の分析を試みてきた。以下にその結果をまとめる。

およそ男性が7割(72.2%)、女性が3割(27.8%)を占めている。次に、年齢構成は、60歳以上の中高齢者がほぼ9割(88.0%)を占める一方で、60歳未満は1割強(12.0%)と少数であり、40歳未満は男女とも1人もいない年齢構成となっている。

- ① 受講生の主な職業は、「無職」が57.4%で半数を占め、次に「主婦」と「自営業」が14.8%で続いている。他の職業は全て10%以下となっている。
- ② 男性受講者は60歳以上の高齢者が96.2%と大部分を占め、50歳未満の受講者は0人で、男性受講者は全て50歳以上となっている。また、男性の職業は、「無職」が7割強（73.1%）を占めており、次に「自営業」が1割強（12.8%）となっている。その他の職業は、全て5%以下の比率となっている。また、男性の職業を、男性全体の職業別構成で見ると「無職」は全体の91.9%、「自営業」は62.5%、「パートアルバイト」は40.0%を占めており、その他の職業は、人数は少数であるが全て100%を占めている。
- ③ 女性受講者は、40歳未満は1人もいない年齢構成であり、40歳以上では年代によって突出した人数を有することなく、偏らないような平均的な年齢構成となっている。また、女性受講者の職業は、4つの職種に限られており、その半数にあたる53.3%が「主婦」で、次に「自営業」が20.0%、「無職」が16.7%、「パートアルバイト」が10.0%となっている。

①～③のような特徴を有する公開授業受講者の中で、学習集団の中核を形成している市民は、その9割が60歳以上の中高年齢者で、また、その職業の特徴は、大学の授業が行われる「平日の昼間」に大学にて受講できることが大きな条件であり、そのため正規に就労している職業の方ではなく、「無職」「主婦」「自営業」「パートアルバイト」に就いている方が中心となっている。（図・表3-1、図3-2）

2. 大学公開講座の受講理由や学習成果の活用、大学で学びたいこと

前項で、公開講座受講者と公開授業受講者をそれぞれ学習集団と想定し、従来からの定量的な分析に加え、性別や年代、職業などの多面的な視点から考察を行い、集団としての特徴を明らかにした。本項では、公開講座と公開授業のそれぞれ受講者の大学で学ぶことへの期待や思いなどの学習意識について分析を行い、公開講座と公開授業の受講者の大学への期待と学習ニーズを明らかにし、今後の大学公開講座の運営や内容の改善に反映されるようにまとめる。

(1) 公開講座の受講理由について

1) 公開講座受講者と公開授業受講者による受講理由の相違

講座の受講理由として、受講者全体では、受講者の7割を超える71.7%が「興味ある内容の講座があるため」を選択し、次に「幅広い教養を身につけるため」を51.6%が選択し、3番目に「専門的な知識や技術を学ぶため」を33.3%が選択している。他の項目はすべて3割以下の選択比率となっており、この3つの項目が本学公開講座受講者の主たる受講理由となっている。

表5-1 本学公開講座の受講者の受講理由

項目	公開講座		公開授業		受講者全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
幅広い教養を身につけるため	172	49.0	65	60.2	237	51.6
専門的な知識や技術を学ぶため	123	35.0	30	27.8	153	33.3
時代や社会の変化に遅れないため	46	13.1	28	25.9	74	16.1
いろいろな人と交流するため	56	16.0	15	13.9	71	15.5
興味のある内容の講座があるため	243	69.2	86	79.6	329	71.7
友人・知人にすすめられたため	12	3.4	2	1.9	14	3.1
話を聞いてみたい講師がいるため	28	8.0	11	10.2	39	8.5
退職後の余暇の充実のため	79	22.5	45	41.7	124	27.0
仕事に役立つ資格を取得するため	9	2.6	2	1.9	11	2.4
心のハリや生きがいを味わうため	92	26.2	44	40.7	136	29.6
地域活動等の地域貢献に活かすため	48	13.7	15	13.9	63	13.7
生活の時間に余裕ができたため	55	15.7	32	29.6	87	19.0
大学の雰囲気味わうため	41	11.7	28	25.9	69	15.0
その他	4	1.1	2	1.9	6	1.3
合計	1008		405		1413	

※公開講座 (N=351 M.T.=287.2) 公開授業 (N=108 M.T.=375.0)

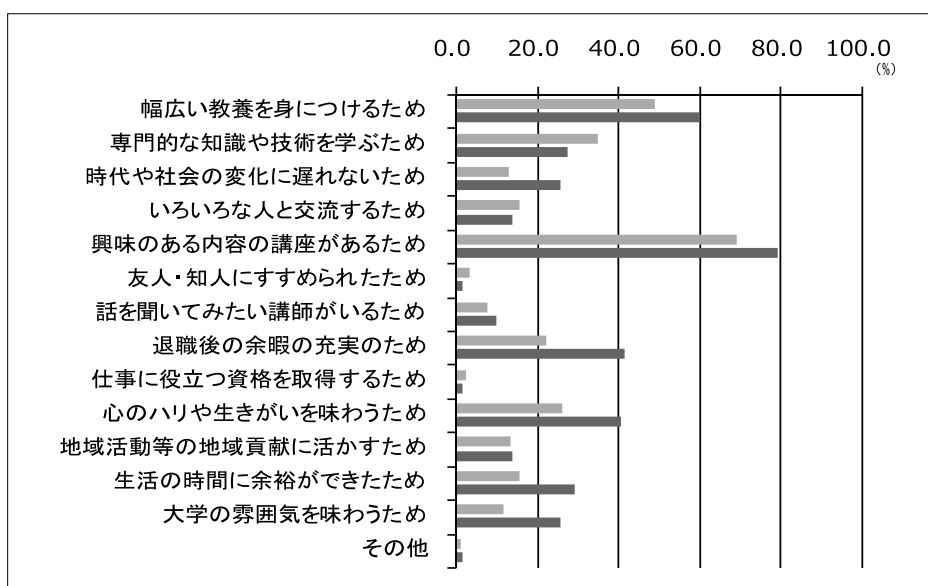


図5-1 本学公開講座の受講者の受講理由 (上段：公開講座受講生 下段：公開授業受講者)

次に、受講理由を公開講座受講者と公開授業受講者に分けて、選択比率を比較してみるとほぼ同様な傾向であるが、公開授業受講者は選択比率が上位にある「興味ある内容の講座があるため」と「幅広い教養を身につけるため」においても、公開講座受講者より10ポイントほど選択数値が高く、講座受講の目的が明確で、学習意欲が高いのではないかと推察される。また、前項の分析で、公開授業受講者の9割が60歳以上であり、かつ職業的に退職後の人が多く参加していると推察したが、受講理由の選択項目の「退職後の余暇の充実のため」や「心のハリや生きがいを味わうため」に関しても選択比率が4割を超え、公開講座受講者の1.5倍から2倍となっていることから、前項の分析を裏付ける結果となっている。以上のことから、受講理由の上位はどちらも同じであるが、公開授業受講者の方が多くの項目で選択比率の数値が高いことから、講座受講の目的が明確であり、学習意欲も高いものと考察される。

2) 受講者の年齢区分による受講理由の相違

前項Ⅲ-1「受講者の学習集団としての概要と特徴」では年齢や性別、職業を切口に分析を行い、60歳が定量的に大きな差異が生じる分岐点であり、60歳未満と60歳以上の学習集団ではその特徴が大きく異なることが明らかになった。今日、一般的には60歳が就労者の退職年齢期であり、退職を機に社会環境、生活環境、地域社会との関係などが変化し、さらには人生観や生活観なども大きく変化するといわれている。そのような観点からも、大学公開講座の受講理由も60歳を分岐点に60歳未満と60歳以上の世代の間で違いが生じることが予想されることから比較・分析することとした。

受講者の年齢構成は、60歳以上の受講者が7割、60歳未満の受講者が3割を占めている。また、60歳以上の受講者は「無職」、「主婦」、「自営業」などの職業を多数が占める一方、60歳未満の受講者は、「団体職員」「会社員」「公務員」「パートアルバイト」などの職業を選択している場合が多くなっている。

このような年齢的、また職業的背景を踏まえて比較分析すると、前項で上位であった「興味ある内容の講座があるため」は、60歳以上も60歳未満でも受講者は一番多く選択している。また、「幅広い教養を身につけるため」は60歳以上の受講者の選択の比率は、60歳未満の受講者のより20ポイントも高く、「幅広い教養を身につけること」に関心が高いことが推察される。一方、60歳未満の受講者に2番目に選択された「専門的な知識や技術を学ぶため」は、60歳以上の受講者より約10ポイント高く「専門的な知識や技術」に関心が高いと推察される。

また、60歳以上の受講者は、60歳未満の受講者と比較して、「退職後の余暇の充実のため」「心のハリや生きがいを味わうため」「生活時間に余裕ができたため」「時代や社会の変化に遅れないため」「地域活動等の社会貢献に活かすため」等の受講理由を倍以上の高い比率で選択しており、「退職後の生活や生きがい、社会との係わり」などが選択の大きな要因となっていると推察される。

逆に、60歳未満の受講者は「専門的な知識や技術を学ぶため」「いろいろな人と交流するため」「仕事に役立つ資格を取得するため」等の「社会生活や就労と結びつく」項目を高い比率で選択しており、現役世代としての理由と推察される。

表 5-2 受講者の年齢区分別集団による受講理由

項目	60歳未満		60歳以上		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
幅広い教養を身につけるため	57	38.0	180	58.3	237	51.6
専門的な知識や技術を学ぶため	59	39.3	94	30.4	153	33.3
時代や社会の変化に遅れないため	10	6.7	64	20.7	74	16.1
いろいろな人と交流するため	34	22.7	37	12.0	71	15.5
興味のある内容の講座があるため	103	68.7	226	73.1	329	71.7
友人・知人にすすめられたため	8	5.3	6	1.9	14	3.1
話を聞いてみたい講師がいるため	10	6.7	29	9.4	39	8.5
退職後の余暇の充実のため	7	4.7	117	37.9	124	27.0
仕事に役立つ資格を取得するため	8	5.3	3	1.0	11	2.4
心のハリや生きがいを味わうため	28	18.7	108	35.0	136	29.6
地域活動等の地域貢献に活かすため	10	6.7	53	17.2	63	13.7
生活の時間に余裕ができたため	13	8.7	74	23.9	87	19.0
大学の雰囲気味わうため	18	12.0	51	16.5	69	15.0
その他	3	2.0	3	1.0	6	1.3
合計	368		1045		1413	

※60歳未満 (N=150 M.T.=245.3) 60歳以上 (N=309 M.T.=338.2)

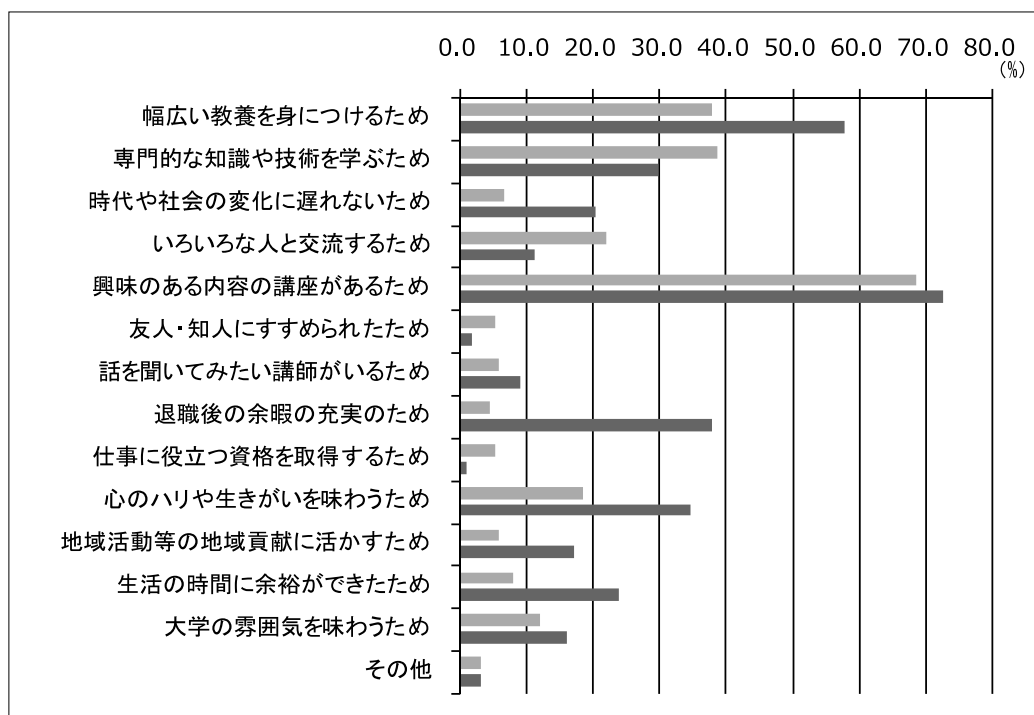


図 5-2 年齢区分による受講理由 (上段：公開講座受講生 下段：公開授業受講者)

3) 受講者の男女差による受講理由の相違

受講者の性別については、前項Ⅲ-1で示した通り、受講者全体、及び公開講座ではほぼ半数ずつであり、公開授業では男性が7割、女性が3割の人数構成になっている。また、60歳を区切りにした年齢区分における受講者の性別の人数構成は、男性では、60歳未満が2割弱の17.6%、60歳以上が8割強の82.4%であり、女性は60歳未満が52.5%、60歳以上が47.5%とおよそ半数ずつとなっている。

このような特徴を有する受講者の性別区分による受講理由は、上位3番目までの選択項目は表・図5-3のとおり、前述の学習形態（公開講座・公開授業）区分や年齢区分とほぼ同じであるが、それより下位の受講理由の項目では、「退職後の余暇の充実のため」や「地域活動等の地域貢献に活かすため」等の理由を男性の受講者が女性の倍近い比率で選択しており、その他の項目は男女とも同じ程度の選択比率となっている。男性の受講者が女性の倍近い比率で選択している項目については、男性の8割強が60歳以上であり、男性受講者の多くが退職を経験していること、また、その後の生きがいとしてボランティア活動や地域活動等の社会貢献を望んでいるものと推察される。

以上のことから、男女の人数はほぼ半数ずつであるが、その男性の受講者の8割が60歳以上ということが、受講理由の男女差に大きく影響していることと推察される。

表5-3 受講者の男女別の受講理由の選択状況

項目	男性		女性		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
幅広い教養を身につけるため	146	56.6	91	45.3	237	51.6
専門的な知識や技術を学ぶため	78	30.2	75	37.3	153	33.3
時代や社会の変化に遅れないため	41	15.9	33	16.4	74	16.1
いろいろな人と交流するため	34	13.2	37	18.4	71	15.5
興味のある内容の講座があるため	179	69.4	150	74.6	329	71.7
友人・知人にすすめられたため	7	2.7	7	3.5	14	3.1
話を聞いてみたい講師がいるため	23	8.9	16	8.0	39	8.5
退職後の余暇の充実のため	92	35.7	32	15.9	124	27.0
仕事に役立つ資格を取得するため	4	1.6	7	3.5	11	2.4
心のハリや生きがいを味わうため	75	29.1	61	30.3	136	29.6
地域活動等の地域貢献に活かすため	46	17.8	17	8.5	63	13.7
生活の時間に余裕ができたため	48	18.6	39	19.4	87	19.0
大学の雰囲気味わうため	33	12.8	36	17.9	69	15.0
その他	3	1.2	3	1.5	6	1.3
合計	809		604		1413	

※男性 (N=258 M.T.=313.6) 女性 (N=201 M.T.=300.5)

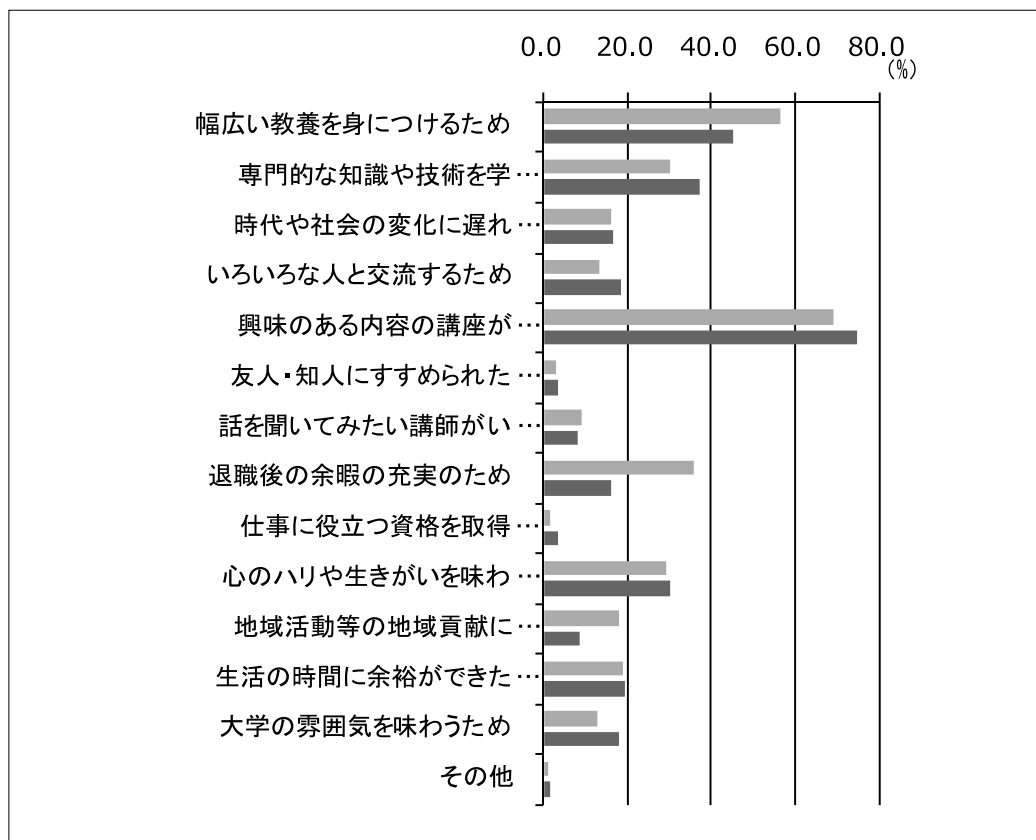


図 5-3 受講者の男女別の受講理由の選択状況(上段：男性、下段：女性)

4) 受講者の職業による受講理由の相違

大学公開講座の受講者の職業は、「無職」が43.8%、「主婦・主夫」が16.8%でこの両者で上位を占め、その他は全て10%を切る状況にある。10%以下の職業として、「パートアルバイト」「会社員」「公務員」「自営業」「団体職員」の方が続いている。(I章(4) 図表4 参照)

このように「無職」と「主婦・主夫」を中心とした職業構成ではあるが、講座の「受講理由」については、どの職業の受講者も「興味ある内容の講座があるため」が回答の上位になっている。このことは、受講者のニーズと学習機会がマッチングするための基本条件であり、学習活動を誘発する内発的動機ともなるものである。

一方、2番目、3番目となる選択の項目は、受講者が大学で講座を受講する理由が具体的に含まれている場合もあり、また、各職業によって特徴が出てくることもあることから、その項目の内容には注目する必要がある。(表5-4 参照)

今回の調査では、前項までの分析と同じく、2番目に「幅広い教養を身につけるため」を「自営業」「主婦・主夫」「無職」「会社員」「公務員」が選択しているが、一方で「団体職員」「パートアルバイト」の職業の方々には「専門的な知識や技術を学ぶため」を選択し、同じ項目を「自営業」「公務員」の方々には3番目に選択しており、職業に係わる学習目的で講座の選択を行っていると思われる。

さらに、「主婦・主夫」「団体職員」「会社員」の方々も、「心のハリや生きがいを味わうため」等の自己実現に結びつく項目を3番目に選択していることも注目される。また、「主婦・主夫」の3割の方、「無職」の5割近い方が「生活の時間に余裕ができたため」の項目を選択していることも学習活動の「きっかけ」の理由として注目されるが、一方で受講者の年齢が高いこともこの項目が選択されている要因と考えられる。

表5-4 受講者の職業別による受講理由集計表

項目	自営業		主婦・主夫		無職		団体職員		会社員		農林漁業従事者		公務員		パートアルバイト		学生		その他		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
幅広い教養を身につけるため	17	50.0	35	46.7	115	57.5	6	40.0	18	45.0	3	60.0	16	44.4	18	41.9	1	33.3	5	83.3	234	51.0
専門的な知識や技術を学ぶため	13	38.2	20	26.7	58	29.0	9	60.0	10	25.0	2	40.0	13	36.1	19	44.2	1	33.3	4	66.7	149	32.5
時代や社会の変化に遅れないため	3	8.8	13	17.3	43	21.5	3	20.0	2	5.0	0	0.0	4	11.1	2	4.7	0	0.0	1	16.7	71	15.5
いろいろな人と交流するため	9	26.5	9	12.0	17	8.5	3	20.0	11	27.5	0	0.0	9	25.0	7	16.3	0	0.0	2	33.3	67	14.6
興味のある内容の講座があるため	23	67.6	63	84.0	143	71.5	9	60.0	24	60.0	1	20.0	28	77.8	30	69.8	1	33.3	4	66.7	326	71.0
友人・知人にすすめられたため	1	2.9	3	4.0	4	2.0	0	0.0	2	5.0	0	0.0	2	5.6	1	2.3	0	0.0	1	16.7	14	3.1
話を聞いてみたい講師がいるため	2	5.9	5	6.7	20	10.0	2	13.3	0	0.0	0	0.0	3	8.3	3	7.0	1	33.3	1	16.7	37	8.1
退職後の余暇の充実のため	2	5.9	16	21.3	94	47.0	1	6.7	2	5.0	0	0.0	3	8.3	5	151.6	0	0.0	0	0.0	123	26.8
仕事に役立つ資格を取得するため	1	2.9	0	0.0	1	0.5	1	6.7	0	0.0	0	0.0	1	2.8	7	16.3	0	0.0	0	0.0	11	2.4
心のハリや生きがいを味わうため	9	26.5	24	32.0	67	33.5	7	46.7	11	27.5	0	0.0	7	19.4	8	18.6	0	0.0	2	33.3	135	29.4
地域活動等の地域貢献に活かすため	9	26.5	5	6.7	32	16.0	1	6.7	4	10.0	0	0.0	5	13.9	3	7.0	0	0.0	1	16.7	60	13.1
生活の時間に余裕ができたため	3	8.8	23	30.7	44	22.0	0	0.0	2	5.0	0	0.0	2	5.6	12	27.9	0	0.0	0	0.0	86	18.7
大学の雰囲気味わうため	5	14.7	13	17.3	30	15.0	2	13.3	6	15.0	0	0.0	4	11.1	6	14.0	1	33.3	1	16.7	68	14.8
その他	2	5.9	3	4.0	4	2.0	1	6.7	2	5.0	0	0.0	1	2.8	1	2.3	0	0.0	1	16.7	15	3.3
合計（回答総数）	99		232		672		45		94		6		98		122		5		23		1396	
（回答者数）	34		75		200		15		40		5		36		43		3		6		457	

(2) 大学公開講座の学習成果の活用について

「学んだことを活かす内容・方法」の問いには、「趣味・教養を高め、自分の生きがいや楽しみにする」の回答が飛びぬけて多く、受講者の7割強（75.3%）が選択している。この結果は、「公開講座」「公開授業」別の受講者の回答比率でも同様な結果となっている。（表・図5-5参照）

2番目は50ポイント以上下がって、22.7%で「自分の健康管理、体力づくり、スポーツ活動に活かす」が続き、それ以降は20%以下の選択比率で残りの項目が続いている。これらの項目には、個人的な「健康管理、体力づくり、スポーツ活動」や「知識や技術を高め仕事に活かす」等の回答がある一方で、「地域の各種団体による地域活動やボランティア活動」などの社会貢献活動に活かす回答もあり、受講者の個人的要望を満たすとともに、学んだことを広く社会に役立てることも受講の目的になっている。

これらの回答を踏まえ、前項の「受講の目的・理由」とあわせて推察すると、大学公開講座受講者の学習ニーズは、ただ単に学習活動に参加すれば満足するというレベルの学習要求ではなく、自ら関心のある内容の講座を選択して、個人の自己啓発、自己実現に結びつく学習活動を欲しているものと考えられる。

次に学習形態の違う公開講座と公開授業の受講者の回答を比較してみると、公開授業の受講者は、「受講の理由」の調査結果から「興味ある内容の講座がある」「幅広い教養を身につけたい」などを高い比率で選択しており、受講の目的も「資格を取る」とか「単位を修得する」ことではなく、個人として「知りたい、学びたい、理解したい」など知的好奇心を満たすために受講すると考察される。

その結果、学習の成果に活かし方も「趣味・教養を高め、自分の生きがいや楽しみにする」を9割の受講者が選択している。つまり、公開授業は、受講者の自己啓発、自己実現に結びつく学習活動となっている。一方、2割前後の比率ではあるが「ボランティア活動などの社会貢献」「地域のネットワークづくり」「地域の学習活動の広がりに活かす」なども選択されており、学んだことを社会的活動に活かすことにも関心が向けられていると推察される。

公開講座の受講者では、「自分の健康管理、体力づくり、スポーツ活動に活かす」が、27.4%の比率で2番目に選択されている。公開授業では7.4%で、公開講座と20%の差が生じている。この違いは、公開講座には、スポーツ系の講座、医学部による健康管理系の講座等があり、講座内容、講座形態の違いが大きく影響している。

全体の結果から、大学公開講座で学んだことをどのように活かすかについては、公開講座・公開授業の両者とも、「趣味・教養を高め、自分の生きがいや楽しみにする」ことを圧倒的に高い比率で選択しており、学習活動を継続し学習成果を積み上げることで、個々人の自己啓発・自己実現に結びつくことが期待されている。

表5-5 学んだこと活かす方法・内容

項目	公開講座		公開授業		受講者全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
自分の生きがいや楽しみ	249	71.1	96	88.9	345	75.3
自分の健康管理、スポーツ活動	96	27.4	8	7.4	104	22.7
地域の学習活動の広がりに活かす	65	18.6	18	16.7	83	18.1
地域の各種団体等の身近な地域活動	51	14.6	8	7.4	59	12.9
ボランティア活動などの社会貢献	67	19.1	23	21.3	90	19.7
地域のネットワークづくり	54	15.4	22	20.4	76	16.6
知識や技術を高め、仕事に活かす	68	19.4	12	11.1	80	17.5
特になし	9	2.6	4	3.7	13	2.8
その他	6	1.7	6	5.6	12	2.6
合計（回答総数）	665		197		862	
（回答者数）	350		108		458	

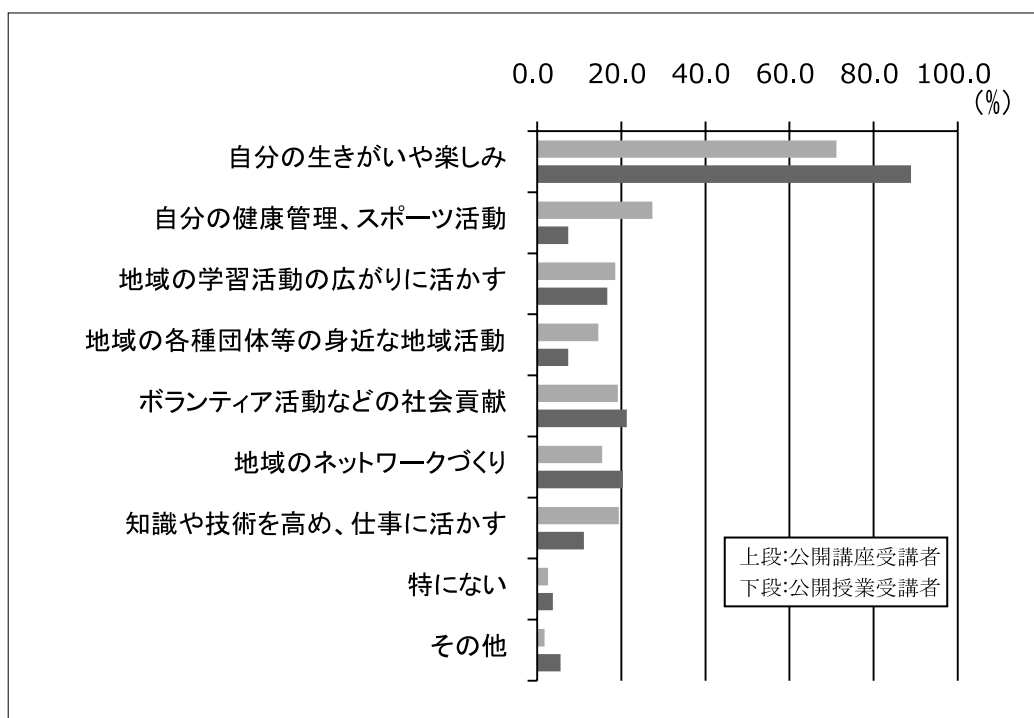


図 5-5 学んだこと活かす方法・内容

(3) 大学で学びたいこと、関心のあること

1) 公開講座受講者と公開授業受講者の学習ニーズの相違

受講者全体では、「大学で学びたいこと」として、一番多くあげられたのは「教養を高める」であり、受講者のほぼ7割があげている。2番目には、1番目から30ポイント下がるが、「社会問題、時事問題を理解する」をほぼ4割の受講者があげ、3番目に「趣味を深める」を4割弱の受講者があげている。さらに「健康管理の最新知識を学ぶ」が4番目に選択されており、この4項目が3割以上の選択比率となっている。一方、社会生活や教育問題等に係わること、ITや職業上の技術に係わること、ボランティアや地域活動に係わること等は3割以下の低い選択比率となっており、前項の「講座を受講した理由」や「学んだことをどのように活かしたい」等の質問の回答と比較しても、「今後、大学で学びたいこと」は、「趣味・教養を高めること、専門的な知識や技術を学ぶこと」が受講生全体の学習希望の基本要素であると推察された。(表6-1、図6-1-1参照)

次に、「大学で学びたいこと」に関して、受講者全体の傾向と比較して、公開講座受講者と公開授業受講者の間に違いがあるのか比較検証してみた。その結果、両者の回答の傾向に大きな相違が見えてきた。

公開授業受講生の9割以上(91.6%)が「大学で学びたいこと」として、「教養を高める」ことをあげており、公開授業受講生の目的意識の高さがうかがえる高い比率となっている。次に、30数ポイント下がるが、6割近い受講生が「社会・時事問題を理解する」を選択している。さらに「趣味を深める」が3割弱で続き、他の項目はすべて2割以下の比率となっている。M.T.(Multiple Total)は275.7で、受講生は平均2.76の選択数であり、その点からも公開授業受講生の「大学で学びたい」こと、つまり学習目的は明らかに上位2つの項目内容に集約している。

表 6-1 「大学で学びたいこと」等の公開講座・公開授業受講生の意識の比較

項目	公開講座		公開授業		受講者全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
趣味を深める（美術・陶芸等）	144	42.2	32	29.9	176	39.3
教養を高める（語学・考古学等）	233	68.3	98	91.6	331	73.9
社会・時事問題を理解する	136	39.9	62	57.9	198	44.2
健康管理の最新知識を学ぶ	133	39.0	16	15.0	149	33.3
生活の課題を理解する	84	24.6	16	15.0	100	22.3
教育問題を理解する	73	21.4	17	15.9	90	20.1
I T社会・技術に関する学習	76	22.3	11	10.3	87	19.4
スポーツ・レクリエーション活動	59	17.3	0	0.0	59	13.2
社会的活動（ボランティア活動）	76	22.3	17	15.9	93	20.8
職業上の知識・技能（専門技術）	39	11.4	11	10.3	50	11.2
農業・園芸等に関する知識・技術	85	24.9	14	13.1	99	22.1
その他	5	1.5	1	0.9	6	1.3
合計（回答総数）	1143		295		1438	
（回答者数）	341		107		448	

※全体（N=448 M.T.=321.0） 公開講座（N=341 M.T.=335.2） 公開授業（N=107 M.T.=275.7）

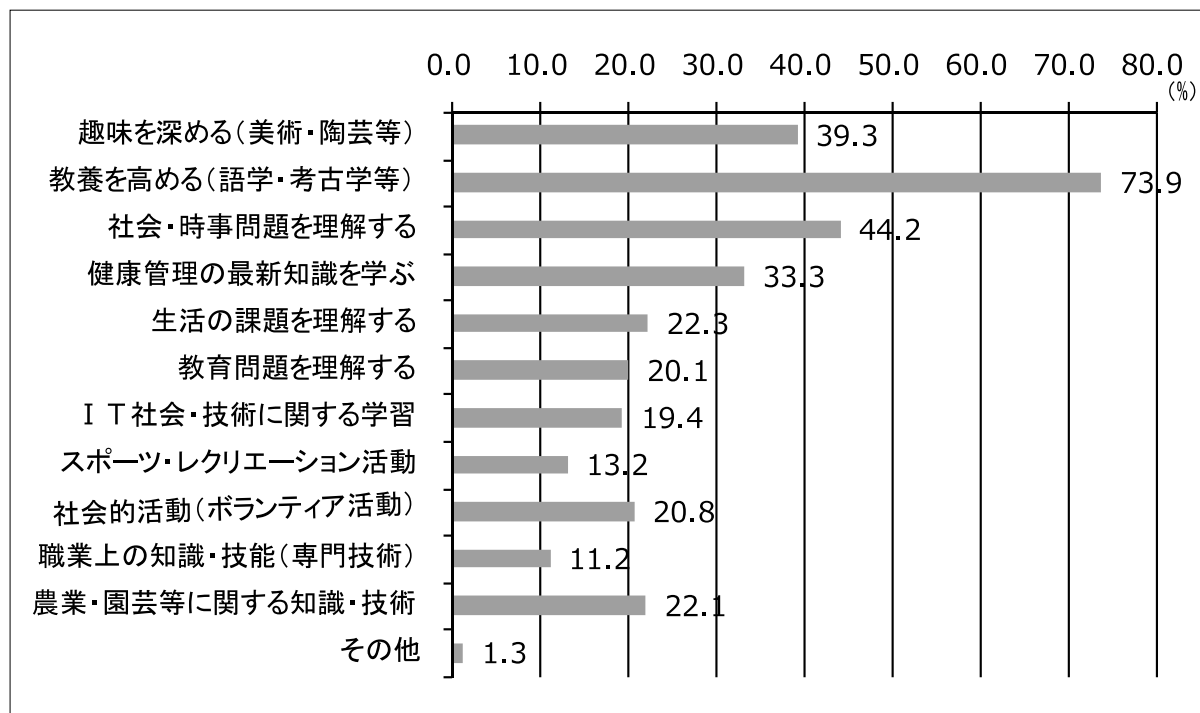


図 6-1-1 「大学で学びたいこと・関心のあること」

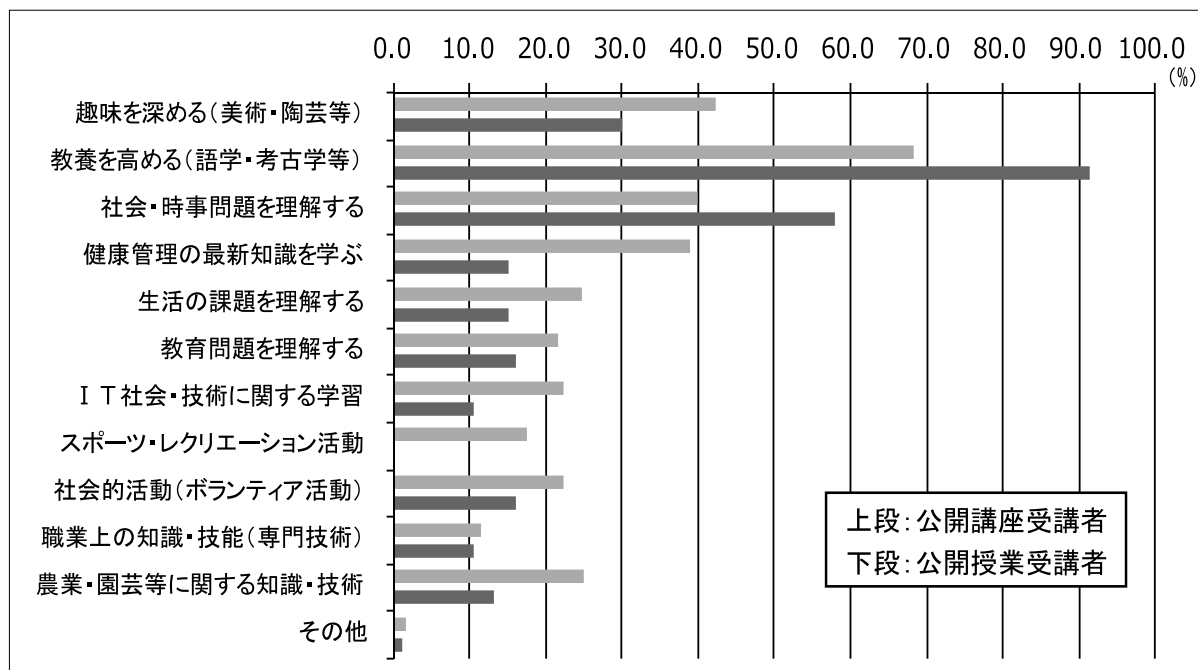


図 6-1-2 「大学で学びたいこと」等の公開講座・公開授業受講生の意識の比較

一方、公開講座受講生も「教養を高めること」を一番多く選択しているが、その選択率は7割弱(68.3%)であり、公開授業受講生より20ポイント以上も低い選択率となっている。また、2番目以下は、「興味を深める」「社会・時事問題を理解する」「健康管理の最新知識を学ぶ」などが4割前後の比率で選択され、他の項目は2割前後の選択率となっている。

これらの結果から、公開講座受講生は、個々人の学習目的が、公開授業の受講生のように「教養を高める」「社会・時事問題を理解する」等の学習目的に集約されるのではなく、公開授業受講生に比較して、個々人が幅広い学習目的を有しており、そのことが「大学で学びたいこと」の選択比率が各項目全般に分散していると推察される。

公開講座受講生と公開授業受講生の両者の特徴を踏まえ、「大学で学びたいこと」(学習の目的)を比較すると、公開授業の受講生が、歴史・文化、語学等の「教養を高める」講座や「社会・時事問題を理解する」講座など、自己啓発、自己実現に結びつくような講座を公開授業に強く期待していることが明らかになった。

一方、公開講座受講者は、公開授業受講者よりも選択比率は少し低いが、同様に「教養を高める」「社会・時事問題を理解する」等を上位で選択している一方、それ以外の幅広いジャンルの内容にも関心を抱いており、公開講座の多様な内容、分野の講座が期待されていることが伺える。

2) 受講者の年齢区分による学習ニーズの相違

受講者の年齢区分については、前節にて60歳が定量的に大きな差異が生じる分岐点であり、60歳未満と60歳以上の学習集団ではその特徴が大きく異なることを示してきた。60歳を区切りにした年齢区分における受講者の性別の人数構成は、男性では、60歳未満が2割弱の17.6%、60歳以上が8割強の82.4%であり、女性は60歳未満が52.5%、60歳以上が47.5%とおおよそ半数ずつとなっている。

今回の「大学で学びたいこと」に関しても、60歳を分岐点に60歳未満と60歳以上の世代の間で意識の違いを分析、比較することとした。

受講者の年齢構成は、60歳以上の受講者が7割、60歳未満の受講者が3割を占めている。また、60歳以上の受講者の職業は「無職」、「主婦」が大多数を占める一方、60歳未満の受講者は、「団体職員」「会社員」「公務員」「パートアルバイト」などの職業の受講者が多くなっている。

このような年齢構成、また職業構成を背景に比較分析すると、60歳以上の受講者が「大学で学びたい」項目として選択した比率は、1番目に「教養を高める」が80.4%、2番目に「社会・時事問題を理解する」が51.8%であり、3番目に「健康管理の最新知識を学ぶ」が36.9%となっている。アンケートの質問では、「教養を高める」ことの例示には、「宗教・思想・文学・歴史・語学・考古学」などを、また「社会・時事問題を理解する」の例示には、「社会経済・国際関係・環境問題・エネルギー」などを挙げている。(巻末資料) これらの例示からも推察されるが、「教養を高める」ことを受講者の8割が、「社会・時事問題を理解する」を5割の受講生が選択しており、60歳以上の受講者は自らの自己啓発・自己実現に結びつく学習機会への要求が非常に高いと考察する。

表 6-2 受講者の年齢区分による「大学で学びたい」ことの相違

項目	60歳未満		60歳以上		受講者全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
趣味を深める(音楽・美術など)	77	52.4	99	32.9	176	39.3
教養を高める(文学・歴史など)	89	60.5	242	80.4	331	73.9
社会・時事問題を理解する	42	28.6	156	51.8	198	44.2
健康管理の最新知識を学ぶ	38	25.9	111	36.9	149	33.3
生活の課題を理解する	25	17.0	75	24.9	100	22.3
教育問題を理解する	33	22.4	57	18.9	90	20.1
I T社会・技術に関する学習	27	18.4	60	19.9	87	19.4
スポーツ・レクリエーション活動	40	27.2	19	6.3	59	13.2
社会的活動(ボランティア活動)	20	13.6	73	24.3	93	20.8
職業上の知識・技能	27	18.4	23	7.6	50	11.2
農業・園芸に関する知識・技術	24	16.3	75	24.9	99	22.1
その他	1	0.7	5	1.7	6	1.3
合計(回答総数)	443		995		1438	321.0
(回答者数)	147		301		448	

※全体 (N=448 M.T.=321.0) 60歳未満 (N=147 M.T.=301.4) 60歳以上 (N=301 M.T.=330.6)

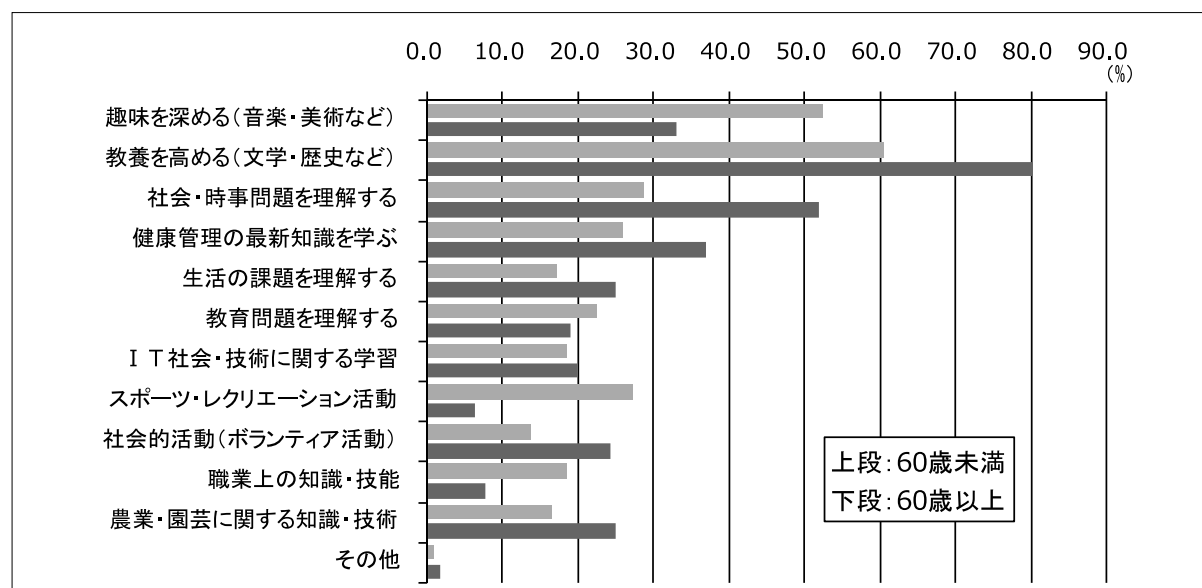


図 6-2 受講者の年齢区分による学習希望の相違

次に、60歳未満の受講者が選択した項目の高い比率は、1番目が「教養を高める」で60.5%、2番目に「趣味を深める」を52.4%、3番目に「社会・時事問題を理解する」が28.6%となっている。60歳未満の受講者の特徴として、選択比率の1位と2位だけが5割を超えるが、残りの項目の選択比は全て3割以下の低い比率となっている。60歳未満の受講生の「大学で学びたいこと」については、半数以上の受講者が「教養を高める、趣味を深める」ことに強い関心があるが、残りの項目の選択比率は高くないが、個々人の受講者が関心のある内容が幅広く選択していることが推察される。

3) 受講者の男女の違いによる「大学で学びたい」ことの相違

受講者の性別は、男女ほぼ半数ずつで、公開講座の受講者の男女比もほぼ半数ずつであるが、公開授業では男性が7割、女性が3割の人数構成になっている。また、男性受講者の61.0%が「無職」であり、「無職」以外は全て1割以下の比率となっている。女性受講者の37.9%が「主婦」であり、21.2%が「無職」となっている。※統計分析上、「主婦」を無職に加える場合もあるので、その場合には、男性、女性とも「無職」の占める割合がほぼ6割となる。

このような男女構成、職業構成を踏まえて比較分析すると、受講者の性別区分による「大学で学びたい」ことは、表・図6-3のとおり、男性の受講者が「大学で学びたい」項目として選択した比率は、1番目に「教養を高める」が76.4%、2番目に「社会・時事問題を理解する」が50.2%であり、3番目に「趣味を深める」が31.2%を占めている。残りの項目の内、選択比率が20%以下の項目が6割を超えており、男性の受講者の学習の目的が上位3項目に集約していることが伺える。

表6-3 受講者の男女の違いによる「大学で学びたい」ことの相違

項目	男性		女性		受講者全体	
	度数	%	度数	%	度数	%
趣味を深める（音楽・美術など）	79	31.2	97	49.7	176	39.3
教養を高める（文学・歴史など）	194	76.7	137	70.3	331	73.9
社会・時事問題を理解する	127	50.2	71	36.4	198	44.2
健康管理の最新知識を学ぶ	63	24.9	86	44.1	149	33.3
生活の課題を理解する	40	15.8	60	30.8	100	22.3
教育問題を理解する	36	14.2	54	27.7	90	20.1
I T社会・技術に関する学習	43	17.0	44	22.6	87	19.4
スポーツ・レクリエーション活動	27	10.7	32	16.4	59	13.2
社会的活動（ボランティア活動）	54	21.3	39	20.0	93	20.8
職業上の知識・技能	24	9.5	26	13.3	50	11.2
農業・園芸に関する知識・技術	57	22.5	42	21.5	99	22.1
その他	2	0.8	4	2.1	6	1.3
合計（回答総数）	746		692		1438	
（回答者数）	253		195		448	

※全体（N=448 M.T.=321.0） 男性（N=253 M.T.=294.9） 女性（N=195 M.T.=354.9）

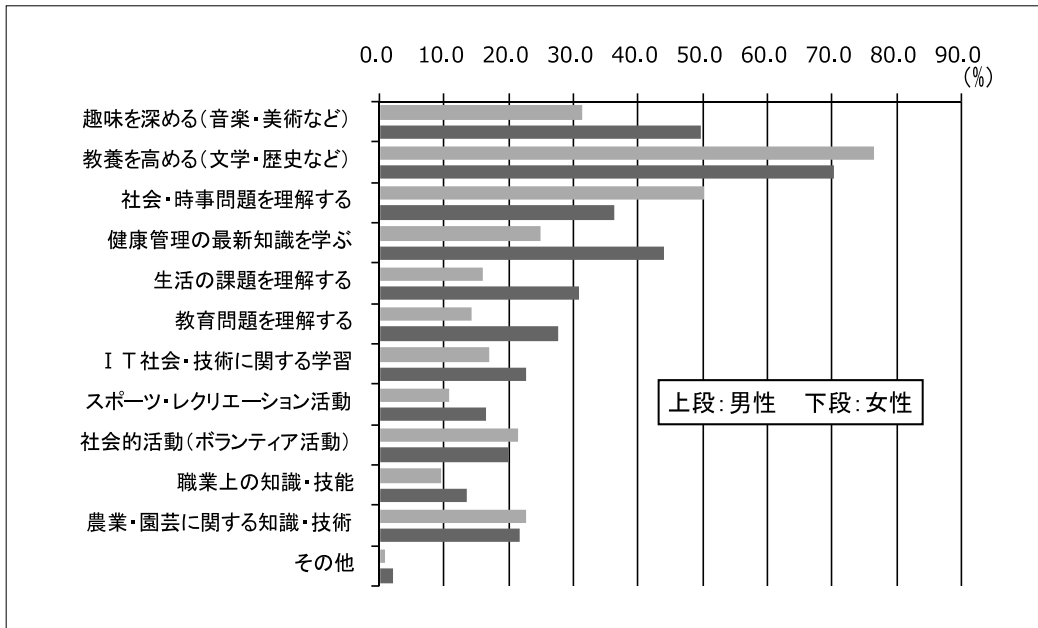


図 6-3 受講者の男女の違いによる「大学で学びたい」ことの相違

一方、女性受講者の場合は、「教養を高める」が70.3%で最大比率の項目は男性と同じであるが、2番目は「趣味を深める」が49.7%であり、3番目は「健康管理の最新知識を学ぶ」が44.1%で、「社会・時事問題を理解する」は36.4%で4番となっている。選択比率が20%を下回っているのは「スポーツ・レクリエーション活動」と「職業上の知識・技能」の2項目だけであり、その他、生活課題、教育問題、IT社会・技術、社会的活動などの生活的課題、社会的課題に関する項目は、選択比率が20%~50%の間に分散しているが、男性と比べても、個々人の生活に係る課題に幅広く関心を持っていることが明らかになった。

IV. 調査のまとめ

1. 島根大学公開講座の受講者の概要

調査に回答を寄せた受講者463名の全体概要は以下のようにまとめられる。

受講者の性別は、男性56.5% (261名)、女性43.5% (202名) で若干男性が多い。その年齢構成の特徴として、60歳以上が全体の7割近くの67.2%を占めており、男性受講者の83.0%、女性受講者の47.5%が60歳以上に含まれている。また、受講者の年代では、60歳代が一番多く42.2% (196人) となっている。

受講者の居住地区は松江市が82.1% (380名)、出雲市が11.0% (51名) で、大学キャンパスがある両市で9割を超えている。

受講者の職業は、無職43.8%、主婦16.8%が多く、全体の6割を占めている。その他の職業はすべて10%以下の比率となっている。

次に、実施形態の異なる公開講座と公開授業の受講者の概要をまとめる。

(1) 公開講座受講者の概要と特徴

公開講座受講者は、男性が51.5%、女性が48.5%とほぼ半数であり、男女とも60歳代が最大構成人数となっている。また、60歳以上の受講者は全体の60.8%を占め、60歳以上の高齢者層が学習集団の大部分を形成している。

受講者の職業は、無職 (39.7%)、主婦 (17.5%) が上位を占め、次に「パートアルバイト」「会社員」「公務員」などが10%台で続いている。男女別職業では、男性は、「無職」が6割近い56.3%を占め、次に、40ポイント以上下がって「公務員」が12.6%、「会社員」が10.4%と続いている。女性は、「主婦」が最多数で36.0%を占め、次に「無職」が22.1%、さらに「パートアルバイト」が13.4%、「会社員」が10.5%で続いている。

① 公開講座受講者の年齢と性別、職業との関係を併せた特徴

男性受講者は、60歳以上の高齢者が7割を上回る76.4%を占めている。また、それら高齢者の職業は、「無職」が72.9%で、次は「パートアルバイト」が9.3%で続き、「無職」以外は全て10%以下の比率となっている。

60歳未満の男性受講者は、全体の3割以下の23.6%であり、その主な職業は、およそ半数の48.8%が「公務員」で、次に「会社員」が27.9%、「団体職員」が14.0%で、3つの職種で9割、90.1%を占めている。このことから60歳未満の男性受講者のほとんどが就労している状況にある。

女性受講者は、60歳以上が44.1%で、60歳未満が55.9%であり男性受講者と逆になっている。60歳以上の女性受講者の職業は、「主婦」が46.1%、「無職」が44.8%と合わせて9割を超えている。

60歳未満の女性の職業を見てみると、「主婦」が25.5%で最も多いが、他にも「会社員」「パートアルバイト」が共に18.8%、「公務員」が13.6%、「自営業」10.4%等幅広い職業構成となっている。60歳未満の女性受講者の場合は、就労している受講者が多いことも特徴になっている。

② 公開講座受講者の学習集団としての特性

男性受講者の60歳～70歳代の高年齢層が、受講者全体の7割 (69.4%) を占め、学習集団の中核を形成している。この年代の受講者の主たる職業は、圧倒的に「無職」が多く7割 (72.4%) に達している。

女性受講者は、40歳～60歳代の中高年齢層が7割 (71.7%) を占めており、この年代が女性受講者の学習集団の中核を形成している。また、この年代の受講者の主な職業は、「主婦」で4割 (42.7%) を占めている。その他、「パートアルバイト」 (17.7%)、「無職」 (14.5%) が続いている。

公開講座受講生の学習集団（男性は60～70歳代、女性は40歳～60歳代）の中核を形成している男女受講生は、リピーターも多く、複数の講座を受講するなど積極的に学習活動に取り組んでいる。今後、地域社会のニーズや市民の要望等を踏まえて公開講座のあり方を検討するにあたっては、この学習集団を形成している中高年齢者層のニーズは重要である。

一方、人数的には3割（29.3%）と少ないが、職業的には就労している「団体職員」「会社員」「公務員」や「学生」等、時間的に制約のある40歳未満の若年齢層の受講者の学習ニーズにも注目することが必要と考えられる。

(2) 公開授業受講者の概要と特徴

公開授業受講者は、男性が7割の72.2%、女性が3割の27.8%と男性が2倍以上多い人数構成となっている。また、年齢構成では、60歳以上の受講者がほぼ9割の88.0%を占め、60歳以上の高齢者層が学習集団を形成している。60歳未満は1割強の12.0%と少数であり、40歳未満は男女とも1人もいない年齢構成となっている。受講者の職業は、「無職」が57.4%、「主婦」と「自営業」が14.8%で、他の職業は5%以下となっている。

① 公開授業受講者の年齢と性別、職業との関係を併せた特徴

男性受講者は、60歳以上の高齢者が96.2%と大部分を占め、50歳未満の受講者は1人もなく、全て50歳以上となっている。また、男性の職業は、「無職」が7割強、73.1%を占めている。

女性受講者は、60歳以上の受講者が66.7%と7割近いが、40歳未満は1人もいない年齢構成となっている。また、女性受講者の職業は、4つの職種に限られており、「主婦」が53.3%でその半数を占め、次に「自営業」が20.0%、「無職」が16.7%、「パートアルバイト」が10.0%となっている。

② 公開講座受講者の学習集団としての特性

学習集団の中核を形成している受講者は、大学の授業が行われる「平日の昼間」に大学にて受講できることが大きな条件であり、そのため正規に就労している職業の方は少なく、「無職」「主婦」「自営業」「パートアルバイト」に就いている方が中心となっており、その9割が60歳以上の高齢者から構成されていることが大きな特徴となっている。

公開授業受講者は、リピーターも多く、学習目的もはっきりしており、複数の授業を受講するなど積極的に学習活動に取り組んでいる。しかし、公開授業は、大学の教育機能の主たる役割でもある学生教育の一部を社会人にも開放し、社会人の学習ニーズに応じているものである。そのため、学生教育のカリキュラム構成が優先され、公開講座のように地域社会のニーズや社会人の要望等を踏まえて講座内容を検討することはほとんどないと言える。

2. 大学公開講座の受講理由や学習成果の活用、大学で学びたいこと

公開講座受講者の大学で学ぶことへの期待や思いなどの学習意識について分析を行い、公開講座と公開授業の受講者の大学への期待と学習ニーズの相違などについてまとめる。

(1) 公開講座の「受講理由」について

受講者全体では、「興味ある内容の講座があるため」を7割を超える71.7%の受講者が選択し、「幅広い教養を身につけるため」を51.6%の受講者が選択し、次に「専門的な知識や技術を学ぶため」を33.3%の受講者が選択している。この3つの項目が受講者全体の主たる受講理由となっている。

① 公開講座受講者と公開授業受講者の「受講理由」の相違については、公開講座受講者は受講者全体の選択傾向とほぼ同様であるが、公開授業受講者は上位項目の選択率がおよそ10ポイント公開講座受講者より高くなっている。また、「受講理由」の選択項目の「退職後の余暇の充実のため」が41.7%、「心のハリや生きがいを味わうため」が40.7%と高い比率で選択されてお

り、公開授業受講者の9割が60歳以上であり、かつ職業的に退職後の人が多く参加していることが大きく反映しているものと推察される。

- ② 受講者の年齢区分による「受講理由」の相違については、60歳以上の受講者は、上位2番目の「幅広い教養を身につけるため」に関して、60歳未満の受講者のより20ポイントも多く選択しており、「幅広い教養を身につけること」に関心が高いことが推察される。また、60歳以上の受講者は、「退職後の余暇の充実のため」「心のハリや生きがいを味わうため」「生活時間に余裕ができたため」「時代や社会の変化に遅れないため」等の受講理由を60歳未満の受講者と比較して、倍以上の非常に高い比率で選択しており、60歳以上の受講者の「退職後の生活や生きがい、社会との係わり」などが選択の大きな要因となっていると推察される。

一方、60歳未満の受講者が2番目に選択した「専門的な知識や技術を学ぶため」は、60歳以上の受講者より約10ポイント高く、項目への関心が高いと推察される。また、60歳未満の受講者は「専門的な知識や技術を学ぶため」「いろいろな人と交流するため」「仕事に役立つ資格を取得するため」等の「社会生活や就労と結びつく」項目を高い比率で選択しており、現役世代としての理由によるものと推察される。

- ③ 受講者の性別区分による「受講理由」の相違については、上位の選択項目は、学習形態区分や年齢区分とはほぼ同じであるが、男性の受講者が3番目に多く選択した「退職後の余暇の充実のため」の比率35.7%は、女性の同比率15.9%の2倍以上の数値であり、男性受講者に退職後の高年齢者層が多いことが反映されているものと推察される。
- ④ 受講者の職業区分による「受講理由」の相違については、最も人数の多い「無職」の受講者が、「退職後の余暇の充実のため」と「心のハリや生きがいを味わうため」を3、4番目にあげている。また、「主婦」の受講者は「心のハリや生きがいを味わうため」と「生活の時間に余裕ができたため」を同じく3、4番目にあげている。また、「団体職員」と「パートアルバイト」の受講者は、2番目に「専門的な知識や技術を学ぶため」を選択しており、これらの選択項目の差異は、受講者一人ひとりの生活環境や職業、社会的立場が「受講理由」に反映されているものと推察される。

(2) 大学公開講座の「学習成果の活用」について

「趣味・教養を高め、自分の生きがいや楽しみにする」が飛びぬけて多く、受講者全体の7割強にあたる75.3%が選択している。2番目は50ポイント以上下がって、22.7%で「自分の健康管理、体力づくり、スポーツ活動に活かす」が続き、残りの項目は20%以下の選択比率となっている。

次に、学習形態の違う公開講座と公開授業の受講者の回答を比較する。

公開授業の受講者は「趣味・教養を高め、自分の生きがいや楽しみにする」を9割、88.9%の受講者が選択している。つまり、公開授業が自己啓発、自己実現に結びつく学習活動となっている。一方、2割前後の比率ではあるが「ボランティア活動などの社会貢献」「地域のネットワークづくり」「地域の学習活動の広がり活かす」なども選択されており、学んだことを社会的活動に活かすことにも関心が向けられていると推察される。

公開講座の受講者では、「自分の健康管理、体力づくり、スポーツ活動に活かす」が、27.4%の比率で2番目に選択されている。公開授業では7.4%で、公開講座と20%の差が生じている。この違いは、公開講座には、スポーツ系の講座、医学部による健康管理系の講座等があり、講座内容、講座形態の違いが大きく影響していると推察される。

全体の結果から、大学公開講座で学んだことをどのように活かすかについては、圧倒的に公開講座・公開授業の両者とも、「趣味・教養を高め、自分の生きがいや楽しみにする」ことである。さらに、学習活動を継続し学習成果を積み上げることで、「個人の自己啓発・自己実現」の達成に近づき、その成果を活かして地域の社会的活動へと結びつくことが期待される。

(3) 大学で学びたいこと、関心のあること

受講者全体では、一番多く選択された項目は「教養を高める」であり、受講者のほぼ7割、73.9%が選択している。2番目には、30ポイント下がり「社会問題、時事問題を理解する」を4割強の44.2%の受講者が選択し、次には「趣味を深める」を4割弱の39.3%の受講者が選択している。4番目となる「健康管理の最新知識を学ぶ」が加わった4項目が3割以上の選択比率となっている。

① 公開講座受講者と公開授業受講者の学習ニーズの相違

公開授業受講者の9割以上にあたる91.6%が「教養を高める」ことを選択しており、公開授業受講者の目的意識の高さがうかがえる選択値となっている。次に、30数ポイント下がるが6割近い57.9%の受講者が「社会・時事問題を理解する」を選択している。さらに「趣味を深める」が3割弱の29.9%で続き、他の項目はすべて2割以下の比率となっている。M.T. (Multiple Total) は275.7で、受講生は平均2.76の選択数であり、その点からも公開授業受講生の「大学で学びたい」こと、つまり学習の目的は明らかに上位2つの項目の内容に集約されている。

公開授業の受講者が、歴史・文化、語学等の「教養を高める」講座や「社会・時事問題を理解する」講座など、自己啓発、自己実現に結びつくような講座を公開授業に強く期待していることも明らかになった。

一方、公開講座受講者も「教養を高めること」を一番多く選択しているが、その選択率は7割弱の68.3%であり、公開授業受講者より20ポイント以上も低い選択率となっている。また、2番目以下は、「趣味を深める」「社会・時事問題を理解する」「健康管理の最新知識を学ぶ」等も4割前後の比率で選択されている。

これらの選択の分散状況から、公開講座受講者は、個々人の学習の目的が、公開授業受講者のように「教養を高める」「社会・時事問題を理解する」に学習の目的が集約されるのではなく、個々人が幅広い学習目的を有していると推察される。

② 受講者の年齢区分による学習ニーズの相違

60歳以上の受講者の8割(80.4%)が「教養を高める」を選択し、次に受講者の5割(51.8%)が「社会・時事問題を理解する」を選択している。さらに3番目に「健康管理の最新知識を学ぶ」が36.9%で選択されている。質問紙の項目の例示からも推察されるが、選択比率の高さと集約から60歳以上の受講者は自らの自己啓発・自己実現に結びつく学習機会への要求が非常に高いと考察する。

次に、60歳未満の受講者の特徴として、選択した上位の項目は変わらないが、選択比率の1位と2位だけが5割を超えるが、残りの項目の選択比は全て3割以下の低い比率となっている。60歳未満の受講生の「大学で学びたいこと」については、半数以上の受講者が「教養を高める」こと、「趣味を深める」ことに強い関心があるが、残りの項目の選択値は高くなく、個々人の関心のある内容が幅広く分散しているものと推察される。

③ 受講者の男女の違いによる「大学で学びたい」ことの相違

男性の受講者が「大学で学びたい」項目として選択した比率は、1番目に「教養を高める」が76.4%、2番目に「社会・時事問題を理解する」が50.2%であり、3番目に「趣味を深める」が31.2%を占めている。残りの項目の内、選択比率が20%以下の項目が6割を超えており、男性の受講者の学習の目的が上位3項目に集約していることが伺える。

一方、女性受講者の場合は、「教養を高める」が70.3%で最大比率の項目は男性と同じであるが、2番目は「趣味を深める」が49.7%であり、3番目は「健康管理の最新知識を学ぶ」が44.1%で、「社会・時事問題を理解する」は36.4%で4番となっている。選択比率が20%を下回っているのは「スポーツ・レクリエーション活動」と「職業上の知識・技能」の2項目だけであり、その他、生活課題、教育問題、IT社会・技術、社会的活動などの生活的課題、社会的課題に関する項目は、選択比率が20%~50%の間に分散しているが、男性と比べても、個々人の生活に係る課題に幅広く関心を持っていることが明らかになった。

以上、本学公開講座のアンケートの結果をまとめ、幅広い観点から分析することで、前述に示したように公開講座、公開授業ともそれぞれの特徴が明らかになった。これらの特徴、及び課題を今日の島根大学公開講座の運営改善に活かすことは、アンケートの当初の目的にかなったことである。ところで、これまでの調査結果の分析を通して明らかになった課題に、本学公開講座を実質的に運営している組織体としての課題を加えて検討すると、今後、長期的視点から取り組むべき課題として、「大学全体の中での大学公開講座の位置づけと経営的視点からの運営のあり方」「学生教育と一般成人・社会人対象の教育との分離と融合」「社会貢献的観点から地域の教育システムと大学の公開講座との協働的連携関係の構築」「高齢者層中心の大学公開講座の仕組みから、就労者（生産年齢人口層）も学習活動に参加できる公開講座の仕組みづくり」など大学組織として取り組むべき課題がみえてきた。

今後、島根大学生涯教育推進センターとしては、長期的視点から取り組むべき課題と喫緊に取り組むべき短期的課題に分け、現状の公開講座制度の改善を図りながら、地域住民が直接的に受益できる大学の社会貢献の柱としてその充実に一層取り組む所存である。また、そのために必要な調査・研究を継続して実施する計画である。

最後に、今回のアンケート結果を概観すると、今日を受講生の半数が無職(退職者を多く含む)の方であることから、退職後に自分の「時間ができた」こと、また退職後にできた「余暇を有効に使いたい」という思い、また、団塊世代以上の方が多くことから若い時代に高等教育を受けることができなかったという思いが、あらためて勉強したいという意欲に結びついているのではないかと推察している。このような熱心な思いを受けとめる島根大学公開講座は「大学の専門性が活かされ、知識や技術、教養を高めることができる学習機会」として地域社会に開かれた存在であり、その役割が大きく期待されている。

公開講座受講者アンケート

……アンケートご協力のお願い……

公開講座・公開授業受講者の皆様

本学の公開講座を受講していただき、厚くお礼申し上げます。

さて、島根大学では、公開講座受講者の皆さまの学習活動への「思い」や「期待」、「感想」等をおたずねし、これからの公開講座の企画・運営に反映させる資料を得るため、講座終了時にアンケートを実施しております。

ご多忙のところ大変恐縮ですが、本アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、皆様の回答は、前述の目的以外には使用しませんのでご承知おきください。

島根大学生涯学習教育研究センター

ご記入の前にお読みください

- 1、 回答は、あてはまる番号に○で囲んで下さい。なお、設問によっては複数の回答ができる場合もありますので、ご注意ください。
- 2、 回答が「その他」の場合は、その番号を○で囲むとともに、() 内に具体的にその内容をご記入下さい。
- 3、 ご記入いただいたアンケート票は、大変お手数をおかけしますが、

講座終了後、お帰りの際に、講座担当者にお渡し下さい。

※もし、当日お渡しできない場合には、後日、来校の際に生涯学習教育研究センター窓口を持参されるか、郵送、又はFAXにて下記のセンター事務室までお送り下さいますようお願いいたします。

調査についてのお問い合わせ

島根大学生涯学習教育研究センター 担当：仲野、日野

住 所：〒690-8504 松江市西川津町 1060

電 話：0852-32-6408

FAX：0852-32-6098

Eメール：erc11@edu.shimane-u.ac.jp

質問 9 公開講座を受講した理由は何ですか？ (あてはまるもの全てに○)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 幅広い教養を身につけるため | 2. 専門的な知識や技術を学ぶため |
| 3. 時代や社会の変化に遅れないため | 4. いろいろな人と交流するため |
| 5. 興味のある内容の講座があるため | 6. 友人・知人にすすめられたため |
| 7. 話を聞いてみたい講師がいるため | 8. 退職後の余暇の充実のため |
| 9. 仕事に役立つ資格を取得するため | 10. 心のハリや生きがいを味わうため |
| 11. 地域活動等の地域貢献に活かすため | 12. 生活の時間に余裕ができたため |
| 13. 大学の雰囲気を楽しむため | 14. その他 () |

質問 10 公開講座で学んだことをどのように活かしたいと思いますか？
(あてはまるもの全てに○)

1. 趣味・教養を高め、自分の生きがいや楽しみにする
2. 自分の健康管理、体力づくり、スポーツ活動に活かす
3. 他の人に知識や体験を伝えるなど、地域の学習活動の広がり活かす
4. 自治会・PTA・地域の各種団体など、身近な地域活動に活かす
5. ボランティア活動など、社会貢献に活かす
6. いろいろな人と交流するなど、地域のネットワークづくりに活かす
7. 知識や技術を高め、仕事に活かす
8. 特にない
9. その他 ()

質問 11 今後、大学で学びたいこととしては、どのような内容に関心がありますか？
(関心があるもの全てに○)

1. 趣味を深める (音楽・美術・書道・陶芸・舞踊など)
2. 教養を高める (宗教・思想・文学・歴史・語学・考古学など)
3. 社会・時事問題を理解する (社会経済・国際関係・環境問題・エネルギーなど)
4. 健康管理の最新知識を学ぶ (健康法・医学・最新の治療法・栄養など)
5. 生活の課題を理解する (消費者問題・年金・介護・保険・料理など)
6. 教育問題を理解する (心理、食育、人権、青少年教育、虐待・家庭内暴力など)
7. IT社会・技術に関する学習 (パソコン・インターネット・ICTなど)
8. スポーツ・レクリエーション活動 (最新の指導法、競技技術など)
9. 社会的活動 (地域づくり・ボランティア活動・福祉活動など)
10. 職業上の知識・技能 (最新の研究動向、高度な技術、科学情報など)
11. 農業・園芸等に関する知識・技術 (食品安全、農薬、実践的な農業技術等)
12. その他 ()

質問 12 島根大学公開講座について、要望や感想等がありましたらご記入ください。

(.....)
(.....)
(.....)

これで質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。